

京 都 府	京 都 府
<p>1・9 ㊤同志社教会が創立50周年記念特別伝道を実施(～23日)、堀貞一牧師をむかえ同志社各科学生に同志社精神の振興をはかる。 同志社90年小史</p> <p>1・15 ㊤聖公会下鴨基督教会、日曜学校を開設、生徒50人。 聖公会京都地方部資料</p> <p>1・16 ㊤丹波教会の園部会堂の献堂式を挙(大15・8・6用地購入、大15・9・10起工、大15・12・11竣工、建築費12,300余円、同日、新会堂で丹波基督教会青年会の発会式が行なわれる)。 丹波基督教会史</p> <p>1・一 ㊤西本願寺門主大谷光瑞、土耳其から欧州を巡遊し帰国。 中外</p> <p>2・7 ㊤丹後大震災で寺院の被害134カ寺、被害見込額249万円にのぼる。 日出 1・18</p> <p>2・23 ㊤浄土宗西山派(粟生光明寺)、西山高等女学校を設立。 日出 2・25</p> <p>2・一 ㊤知恩院で善導大師事蹟研究会をもよおし、善導大師の研究資料を展覧。 日出 2・28</p> <p>3・12 ㊤宗教法案反対の仏教徒大会を京都仏教護国団主催により岡崎公会堂で開催(1・14貴族院に上程された宗教法案に反対することを決議)。 日出 3・8</p> <p>3・25 ㊤前天竜寺執事長の背任横領事件公判を京都地方裁判所で執行。 日出 3・26、5・21</p> <p>3・27 ㊤新京極の誓願寺の本堂落成(大13春明治座の火災で類焼したもの)。 日出 3・19</p> <p>4・23 ㊤京都基督教連盟の協同伝道開始(～24日)、佐藤定吉・日野原善輔が京都教会で講演、聴衆約120人。 中外 5・6、京都基督教会50年史</p> <p>5・1 ㊤御室の仁和寺霊宝館竣工、開館式とともに2・13選任の石堂恵猛の門跡晋山式を挙(日出 5・2、文化時報)</p> <p>5・17 ㊤大審院に上告中の出口王仁三郎・浅野和二郎、大正天皇御大葬大赦により、出口は公訴棄却、浅野は免訴となる。 日出 5・18</p> <p>5・一 ㊤府、四条道場金蓮寺(時宗)跡地中心に、新京極の出火地域を市街地建設地に指定(3間幅の道路を通し第3京極ができる)。 日出 5・31</p> <p>5・一 ㊤京都市、欧米大都市の公園式墓地設置に倣って、市有墓地地域の整理に着手。 日出 5・20</p> <p>6・6 ㊤伏見稲荷神社、これまでの諸講社をまとめて大講社を組織(10・2設立奉告祭、11・8稲荷講社大祭。11・8現在の稲荷講社の正講員数は2,598人)。 日出 5・20</p> <p>6・23 ㊤アバーディン神学校長のケアンス来日、平安教会で講演。 平安基督教会略史</p>	<p>7・27 ㊤丹後成相寺(西国28番札所)の堂宇焼失、ただし本堂と宝物は焼失を免がれる。 日出 7・28</p> <p>7・一 ㊤広隆寺蔵の阿弥陀如来像が国宝に指定される。 中外</p> <p>7・一 ㊤東本願寺派仏眼協会京都支部が按摩・マッサージと鍼灸術を教える講習会を開催(京都市社会課は市立簡易宿泊所の娯楽室と隣保館を提供)。 日出 6・22</p> <p>7・一 ㊤丹州恵済会・与謝郡仏教団、震災地4郡の寺院復旧資金の融通を府と文部省に陳情(8・20内務省と大蔵省が丹後震災地罹災者に住宅の建築復旧資金として600万円を融資)。 日出 8・26</p> <p>7・一 ㊤相楽郡東和東村鷲峰山に大本教支部設立が計画され、村民共有林20町歩を安価で提供。 日出 7・10</p> <p>8・4 ㊤左京区要法寺住職竹部日正、本門宗管長に就任。 官報 181</p> <p>8・4 ㊤福原日事、本門法華宗管長に就任。 同上</p> <p>8・13 ㊤渡辺慶次、護王神社の宮司に就任(昭5・2・6辞任)。 護王神社誌</p> <p>8・28 ㊤府社会課が東本願寺・西本願寺や融和事業団体共催で、解放令を記念し「人類愛」をテーマとする宗教劇を京都市公会堂で上演。 日出 8・20</p> <p>8・一 ㊤智積院が秘宝とする江戸時代の学僧運敏(智積院第7世、元禄6・10没)の蔵書を公開。</p> <p>9・1 ㊤府下の金光教青年会連盟では、本部から青年会長の高橋正雄を招き実習会(講習会)と講演を開催(会場は四条・紫野・北野の各教会、～3日)。 中外 9・4</p> <p>9・4 ㊤近江ミッシヨンの吉田悦蔵が南桑田郡馬路村青年倶楽部で講演、馬路にはじめて伝道の門戸が開かれる(会衆70人、同地の松村清次の招きによる)。 丹波基督教会史</p> <p>9・5 ㊤青木栄豊、新義真言宗智山派管長に就任、11・5智積院に晋山。 官報、日出 11・6</p> <p>9・上 ㊤天理教京都教務支庁、深草町大亀谷に起工(建坪500坪、総工費20万円)。 日出 8・6</p> <p>9・9 ㊤古義真言宗仁和寺護持財団設立。 仏教年鑑 昭6</p> <p>10・5 ㊤天理教京都府大会、岡崎公会堂で開催。 日出 10・6、河原町大教会史</p> <p>10・22 ㊤真宗本願寺派管長に大谷光照が就任。 官報</p> <p>10・28 ㊤金光教、東吉田教会設立。 金光教年表</p>

京 都 府	日 本
<p>10・一 ㊤西本願寺黒書院前の能舞台(特別保護建造物)が甚しく破損したため府が修築。 日出 10・17</p> <p>11・1 ㊤東寺に後七日御修法事務局を設置し同修法を復活(弘法大師以来由緒ある修法が中絶していたが、昭3・1・8から毎年1週間、同法要を執行)。 日出 12・22</p> <p>11・4 ㊤妙法院門跡梅谷孝永、天台座主に就任。 官報 260、日出 11・6</p> <p>11・6 ㊤第13回大蔵会蒐集品展覧を京都恩賜博物館で開催。 京都博物館70年史</p> <p>11・9 ㊤大谷大学長南条文雄(真宗大谷派学僧)没(74歳)。 真宗</p> <p>11・15 ㊤府社会課主催で2府5県の融和団体協議会を開催。宗教家が融和問題を理解する方法、部落問題解決のため各宗管長へ宗教家の協力を促すよう進言することを決める。 日出 11・16</p> <p>11・16 ㊤東本願寺前門主大谷光演、裁判所の破産決定に対し抗告を申立てる。 日出 11・17</p> <p>11・一 ㊤増田日継、本門法華宗管長に就任。 官報</p> <p>12・27 ㊤真宗本願寺派京都教区教学財団設立。 仏教年鑑 昭6</p> <p>12・27 ㊤臨濟宗大徳寺内竜翔寺に同寺の維持財団を設立。 同上</p> <p>12・一 ㊤御室派の華道を復興するため昭6の寛平法皇1000年御遠忌までに同派の統一機関として御室仁和寺に華道会館を建設。 日出 12・11</p>	<p>1・一 顕本法華宗浅草統一閣落成。</p> <p>1・一 日本聖公会組織成立40年を記念して全国で「覚醒運動」を展開。</p> <p>3・7 丹後地方で大地震。</p> <p>4・8 文部省、大学文学部神学科卒業生に修身科中等教員無試験検定の資格を与える。</p> <p>4・一 西部日本仏教青年会連盟発会。</p> <p>4・一 辻直四郎、東京帝大文学部梵語梵文学講座を担当。</p> <p>5・27 天理教本部直轄教会長・役員ら26人、鮮満視察旅行に出発(～6・17)。</p> <p>6・16 天理教、米国カリフォルニア州にサウスアメリカン教会設置。</p> <p>7・4 島地大等没(53歳)。</p> <p>8・一 内務省、神官神職の選挙運動を認める。</p> <p>9・13 伊勢時雄(熊本バンド)没(71歳)。</p> <p>11・1 ウォルシュ、日本聖公会北海道地方部主任に就任。</p> <p>11・27 天理教独立20周年記念祭。同日、同教に海外伝道部新設(この頃、教会用ハッピー定められる)。</p> <p>11・一 東京震災記念堂起工。</p> <p>12・7 新井石禅没。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 九条武子、『無憂華』刊行。 ▷ 田村靈祥、朝鮮の古仙道を学び、天真会(のちの天真道教団)を組織。 ▷ 南条文雄没(79歳)。 ▷ 鈴木大拙、「Essays in Zen Buddhism」Vol. 1、ロンドンで刊行。

京 都 府	日 本
<p>1・13 ㊦丹波教会、船井郡胡麻村で聖書研究会を開く、毎週金曜日に内藤弘が指導。 丹波基督教史</p> <p>1・20 ㊦同志社女学校普通学部が同志社女学校高等女学部と改称。 同志社90年小史</p> <p>1・一 ㊦興教書院から真宗本願寺派布教雑誌、月刊『同朋愛』を創刊。</p> <p>1・一 ㊦華頂会館建設企画決定。 教学週報 73</p> <p>2・3 ㊦金光教、七本松教会(5・1 広道教会、8・1 田中教会、10・4 五条坂教会、10・10 上賀茂教会、11・13 山科教会、12・26 千本教会)設立。 金光教年表</p> <p>2・7 ㊦府、神社・寺院・教会の建物や境内を社会教育的に利用することを緊要とし、神社・寺院・教会の社会教育的設備のあるものを調査報告することを市町村長あてに指示。 府通牒 3学 404</p> <p>2・15 ㊦浄土宗西山深草派管長に富永慶法が就任、3・12 誓願寺に晋山。 官報 339、日出 3・8</p> <p>3・8 ㊦浄土宗百万遍知恩寺法主宮沢節音没、78歳。 仏教年鑑 昭5</p> <p>3・13 ㊦日蓮宗大本山本圀寺前貫主浜井日成没。 日出 3・16</p> <p>3・16 ㊦京都基督教会春季覚醒運動(～22日)、このとき家庭会を開会、福永喜久恵・不破ゆうが家庭訪問による伝道を開始。京都基督教会50年史</p> <p>3・29 ㊦天理教一筋宣教所、西ノ京式部町に設立(西村喜之助、所長に就任)。天理教要覧</p> <p>3・一 ㊦二宮忠八、綴喜郡八幡町の邸内に飛行神社を建設。 日出 昭13・1・15</p> <p>4・7 ㊦本門法華宗大本山本能寺の本堂落成、同寺貫主岡本日盛、落慶法要を執行(大6前貫主谷口昌ら再建計画をたて募財に着手、大8・5・8 起工、大12・4・8 立柱、大15・4・8 上棟)。 日出 2・26</p> <p>4・15 ㊦護王神社春季祭再興。護王神社誌</p> <p>4・21 ㊦丹波教会の桧山部に日曜学校開校(児童100人、太田みゆきが指導)。丹波基督教史</p> <p>4・27 ㊦府、農村における農繁期託児所を、神官僧侶らと協力して増加開設することを奨励。 府通牒 3社会 599</p> <p>4・一 ㊦下鴨幼稚園が下鴨基督教会内に開設(定員35人、保母1人、助手1人。12月には木造平屋20坪の園舎を建築、昭6・7 幼稚園令による認可を得、定員50人、保母2人となる)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>5・1 ㊦乙訓郡海印寺村の楊谷寺に楊谷寺維持慈恵会を設立。 仏教年鑑 昭6</p> <p>5・8 ㊦百万遍知恩寺貫主に家政女学校長土川善澂を選任、6・17 知恩寺に晋山。 日出 5・8、6・18</p>	<p>5・11 ㊦府、寺院・教会における教育教化により融和観念徹底に努めるよう通達(祭祀・婚儀・葬礼などで社会生活上の機会均等を妨げる弊風を除去するよう(4・29 内務省訓令昭3-6) 学校長と融和団体長にも通牒)。 府通牒 3社会 614</p> <p>5・12 ㊦立命館大学キリスト教青年会発会式挙行。 日出 5・13</p> <p>6・1 ㊦東本願寺議会議常務委員会で、大谷大学教授金子大栄の著書『浄土の観念』に対する宗義違反の声が再燃。 日出 6・5</p> <p>6・2 ㊦本能寺の信長廟所を修築し、信長350年忌を執行、またこの日日承250年忌を執行。 日出 5・26、6・2</p> <p>6・4 ㊦臨濟宗妙心寺派管長に八幡円福寺住職神月徹宗が就任、7・1 妙心寺に晋山。 官報 432</p> <p>6・上 ㊦京都教会に、毎木曜日午後聖書研究会開始、7・下 金曜日にバイブルクラスが開かれる。 京都基督教会50年史</p> <p>6・一 ㊦大谷大学教授金子大栄の著書『浄土の観念』に対し東本願寺が宗義違反を主張したため同大学長稲葉昌丸以下11人が連快辞職。 日出 6・7、9</p> <p>6・一 ㊦土川善澂(百万遍知恩寺貫主)の門弟ら、浄土宗学興隆会を設立(土川善澂の著書刊行・宗学講演会の開催などを実施し宗学を興隆するため)。11・15 同会第1回講演会開催、土川善澂・伊藤祐児・藤堂祐範・井川定慶・石橋誠道・望月信成・江藤徹英ら講演。日出 6・18、7・6</p> <p>7・13 ㊦黒谷金戒光明寺、善導大師遠忌記念館の建立を決定。 仏教年鑑 昭5</p> <p>7・25 ㊦本能寺貫首に桃井日見晋山。同上</p> <p>7・一 ㊦臨濟宗相国寺派管長に橋本独山が再任。 官報</p> <p>8・一 ㊦東福寺栗棘庵禅学会事務所(代表者伊藤敬宗)から『禅の研究』を創刊(禅の研究と東洋文化の特質を宣揚するため)。仏教年鑑 昭5</p> <p>9・上 ㊦京都に孝明天皇をまつる神社の造営を計画、知事・知名士ら都ホテルに集まり特別委員会を設置し、勅許を請願。日出 9・12</p> <p>9・上 ㊦千本釈迦堂内に府共済会経営の西陣保育園を設立、釈迦堂境内地を児童遊園地に開放。</p> <p>9・12 ㊦宮津聖公会、新会堂と牧師館を建築、教会名を宮津聖アンデレ教会と改称。 聖公会京都地方部資料</p> <p>9・25 ㊦古義真言宗管長泉智等没。 仏教年鑑 昭5</p> <p>9・26 ㊦中井佐一郎(鳥取教会牧師)、京都教会牧師に就任。 京都基督教会50年史</p> <p>10・5 ㊦京都臨濟宗各派本山、達磨1400年忌を執行、また岡崎公会堂で記念講演会を開催。 仏教年鑑 昭5</p>
<p>10・5 ㊦同志社で組合教会第44回總會開催。 中外 9・25</p> <p>10・20 ㊦東本願寺教学部が大典記念事業として京都公民学校(宗教教育を本位とする夜間の公民社会教育)を設立。 日出 10・14</p> <p>10・21 ㊦知恩院華頂婦人会、大典記念事業として知恩院山内に華頂会館と信徒宿泊所を建立し、この日落成(華頂会館の建築様式は和風入母屋造りで建築面積240坪・鉄筋コンクリート造)。 日出 10・21、知恩院史</p> <p>10・23 ㊦天理教河原町大教会創立40周年記念祭執行。 河原町大教会史</p> <p>10・30 ㊦京都府裁判所で天理研究会の不敬事件にたいし連座した22人に判決。日出 11・1</p> <p>11・2 ㊦新古両義真言宗合同により東寺で大元帥御修法を執行。 仏教年鑑 昭5</p> <p>11・3 ㊦大典記念全国仏教徒大会を華頂会館で開催、出席者700余人(2・21 京都仏教護国団が同会準備を担当し理事会を開催)。 同上</p> <p>11・4 ㊦臨濟宗南禅寺派管長赤井義勇、晋山。 同上</p> <p>11・5 ㊦洛西向日町の浄土宗西山専門学校本館・図書館が大典記念事業として増築落成(昭3・2 起工)。 日出 10・26</p> <p>11・10 ㊦今上天皇、京都御所で即位の大典を挙行(京都各本山が御大典奉祝法要を執行)。 仏教年鑑 昭5</p> <p>11・25 ㊦中村栄助(同志社理事)、同志社大学学長に就任。 同志社90年小史</p> <p>12・5 ㊦大典記念全国神職大会、平安神宮で開催(会衆2,000余人)。中外 12・7、日出 12・6</p> <p>12・9 ㊦日本仏教学協会発会式を大谷大学講堂で挙行。 中外 10・9、10、12・11</p> <p>12・11 ㊦高楠順次郎の『大正大藏経』完成記念講演会を開催。 仏教年鑑 昭5</p> <p>12・14 ㊦京都仏教護国団、貧困生活者を慰問するため同情週間を開催。 同上</p> <p>12・17 ㊦京都神道各教連合大会、岡崎公会堂で開催(会衆500人)。 日出 12・18</p> <p>12・28 ㊦葛野郡松尾村の智福山法輪寺に智福山法輪寺護持会を設立。 仏教年鑑 昭6</p> <p>この年</p> <p>▷ ㊦府社に昇格したもの6社(南桑田郡亀岡町の鍬山神社・同郡篠村の八幡宮・加佐郡河守上村の皇太神宮と豊受太神・同郡舞鶴町の朝代神社・宇治郡山科町の日向神社)。郷社に昇格したもの3社(加佐郡由良村の由良神社・北桑田郡周山村の日吉神社・綴喜郡田辺町の棚倉孫神社)。 日出 8・15</p> <p>▷ ㊦福田会が御室仁和寺で高さ1丈の修行大師(弘法大師修行の姿)の銅像を安置。 日出 4・2</p> <p>▷ ㊦仏教護国団、相国寺塔中慈雲庵に少年保護収容所(和敬学園)を設置(のち同庵住職樋口琢堂の個人経営となる)。 日出 7・8</p>	<p>1・一 東方書院『国訳大藏経』(～昭7、48巻)刊行。</p> <p>1・一 天理教、上海・華北両伝道庁設置。</p> <p>2・20 椎尾弁匡、最初の僧侶出身代議士となる。</p> <p>2・26 辻豊吉(熊本バンド)没(67歳)。</p> <p>3・19 天理中学校設立。</p> <p>3・30 河瀬秀治没(90歳)。</p> <p>3・一 東洋大学設立認可。</p> <p>3・一 救護栄海没。</p> <p>4・3 大西愛治郎(ほんみち教祖)ら天理研究会会員385人、不敬事件で検挙。</p> <p>4・一 コロンボに大菩提会創立。5月、ブダガヤで第1回仏誕生祭を行なう。</p> <p>7・25 松井米太郎、聖公会東京教区主教に就任。</p> <p>7・一 ビルマ僧ウ=オッタマ来日。</p> <p>8・一 米人デュワイト=ゴッタート夫妻、仏教研究のため来日。</p> <p>10・1 『金光教教典』刊行。</p> <p>11・2 日本基督教連盟、社会信条を発表(人権尊重、不戦条約促進など)。</p> <p>この年</p> <p>▷ 神道天行居(開祖友清歓喜)・明道会(岸一太)・大本教を離れて開教。</p> <p>▷ 会田ヒデ、天理教の信仰より脱化して布教を開始。昭23、世界心道教を設立。</p>

昭4(1929)年

京	都	府
2・3 ㊤京都教会の市内伝道活発となる。 2・3 八条に講義所設立、2・24 小田原丈太郎宅 に下鴨集会所、沢野医院に下鴨聖書会、中村孝蔵 宅に東山聖書会、古玉繁子宅に室町聖書会が開か れる。 京都基督教会50年史	4・1 ㊤智積院の智山専門学校(旧勸学院) が東京府北豊島郡石神井村に移転。 官報、仏教年鑑 昭6	
2・10 ㊤嵯峨の常寂光寺長尾栄進、日蓮を映 画化して岡崎公会堂で上映。 日出 2・7	4・1 ㊤醍醐寺の薬師如来像が国宝に指定さ れる。 官報	
2・17 ㊤丹波教会の殿田会堂献堂式挙行。同 日、亀岡の王女会を中心に丹波基督教会女子青年 会を結成、殿田会堂で発会式。 丹波基督教会史	4・1 ㊤知恩院、善導大師絵伝完成。 日出 4・18	
2・20 ㊤湯浅弘雄、真言宗小野派管長(随心 院門跡)に就任、4・5 随心院に晋山。 官報 643、日出 2・11	4・1 ㊤知恩院塔頭良心院住職別所照道、同 院を青少年教化の施設にあてる。 日出 4・22	
2・一 ㊤桃井日晃、本門法華宗管長に就任。 官報	5・1 ㊤臨済宗大学長に棲梧木獄が就任。 仏教年鑑 昭5	
2・一 ㊤京都仏教徒同盟会、文部省の宗教法 案反対声明書を各方面に配布。 日出 2・21、27	5・9 ㊤京都女子専門学校長(西本願寺立) に朝倉眺瑞が就任。 同上	
3・8 ㊤京都仏教徒大会を清水寺で開催し、 大西良慶ら宗教法案に賛成することを決議。 日出 3・9	5・25 ㊤清水寺住職大西良慶、法相宗管長に 就任。 官報 720	
3・10 ㊤京都仏教保育協会設立。 浄土教報 1799	5・26 ㊤三条白川東のメソジスト洛東教会が、 仁王門通神宮道西に新会堂を建築落成し鎮堂式を 挙行(29日まで鎮堂記念講演を開催)。 中外 5・29	
3・10 ㊤聖公会聖三一教会は新会堂敷地とし て中京区聚楽通り中町45に308坪を購入。 聖公会京都地方部資料	6・19 ㊤金光教、大宮教会(7・30 長池教会、 8・16 石清水教会)設立。 金光教年表	
3・一 ㊤弓波瑞明、竜谷大学長に就任。 日出 3・30	6・一 ㊤知恩院伝道部の宣伝用映画脚本に富 久美長雄の「苦悩を越ゆる」が入選、8月に映画 完成。 日出 6・18	
3・一 ㊤大谷光瑞、『梵文無量寿経』を翻訳。 中外	7・1 ㊤上京区の妙覚寺に京 都 聾 口 話 学 園 (大14・5 創立)を新築移転。日出 5・12、7・8	
4・1 ㊤村雲婦人会館落成。 日出 3・20、文化時報	7・25 ㊤聖公会聖マリア教会の会館新築定礎 式挙行(鉄筋コンクリート2階建、建坪65坪、工 事費3万円、12・21 献堂式)。 聖公会京都地方部資料	
4・1 ㊤柳谷の楊谷寺奥院落慶式執行、4・17 楊谷寺開山延鎮1100年忌(大14・5・3 全焼、昭 2・7・5 起工、昭4・3・25 竣工、総工費128,000 余円)。 日出 3・24	8・3 ㊤稲葉日幹、本門法華宗管長に就任。 官報 7・81	
4・11 ㊤嵯峨の宝篋院住職山崎益洲、臨済宗 仏通寺派管長に就任。 官報 684、日出 3・20	9・13 ㊤与謝郡の聖公会加悦講義所の新会堂 および牧師館竣工、献堂式を挙行。名称を加悦聖 三一教会と改める。 聖公会京都地方部資料	
4・11 ㊤東寺絵馬堂で絵馬の験現により農作 の吉凶を占うため近村の百姓で賑わう。 日出 4・18	10・10 ㊤小沢日寛、本妙法華宗管長に就任。 官報 842	
4・18 ㊤大谷光演(東本願寺前法主、句仏) 宝物探しの穴掘り事件や、言動上の問題のため、 大谷派僧籍を削除される。 日出 4・20、22	10・22 ㊤旭純栄、新義真言宗智山派管長に就 任、11・5 智積院に晋山。 官報 846、日出 11・6	
4・25 ㊤御室仁和寺石霊堂入仏式執行(天真 ・客真・千流・遠州各流儀による開山宇多天皇に 献花する生花大会も催す)。 日出 4・22	11・1 ㊤大工原銀太郎(もと九州帝大総長)、 同志社第9代総長に就任。 同志社90年小史	
4・26 ㊤アメリカ人仏教徒メリアム=サラノ バ、大徳寺で参禅を始める。 仏教年鑑 昭5	11・19 ㊤エバンジェリン=ブース女史(米国 救世軍総司令)、グリフィス大佐・山室軍平少将 らと京都を訪問。20日同志社で講演、22日市中を 行軍し、夜岡崎公会堂で講演。 日出 11・20	
	11・20 ㊤近角常観ら、華頂会館で東本願寺改 新有志者大会を開催、前法主光演(句仏)の僧籍復 帰と現宗門の改新を訴える。 日出 11・20、29	

参	考	日	本
		2・一	劇「台湾神社」上演に対し宮内省が抗 議。
		3・25	藤井武、『聖書より見たる日本』刊行。
		3・28	国宝保存法公布。
		4・3	ピンステッド、日本聖公会東北地方部 主教に就任。
		4・10	折口信夫、『古代研究』(国文学篇)刊 行。
		4・一	山崎益洲、臨済宗仏通寺派管長に就任。
		7・一	日本聖公会協力伝道開始。
		9・26	天理教三才文庫開館。
		10・4	組合教会総会、東京の本郷教会で開催 (~8日)、昭5から昭9 にいたる5カ年間の長 期伝道決行を決議。
		12・一	『仏教年鑑』創刊。
		12・一	神社制度調査会設置(神社は宗教に非 ずと確認)。 この年 ▷ アッセンブリーズ=オブ=ゴッド教団、聖書 教会を設立。 ▷ 智覚講社(開祖根橋梅太郎)、教会を設立 (昭9 御岳教所属智覚山伊那教会となり、昭22独 立)。 ▷ 太田英三郎、明治教会(扶桑教所属)設立 (明治教団の前身)。 ▷ 村上专精没(79歳)。 ▷ 近角常観、真宗大谷派の僧籍を削除される。
ノ		11・一	㊤木村日舜、本門法華宗管長に就任。 官報
		12・1	㊤京都キリスト教女子青年会商工部 (職業婦人部)、比叡山上に修養場兼休養所の建築 竣工し、献堂式を挙行。 日出 11・29
		12・一	㊤浄土宗西山深草派の勸学院設置を宗 議会で決定。
		12・一	㊤大西玄光(下京区専求寺住職)浄土宗 西山禅林寺派管長に就任。 官報、日出 1・8

京	都	府
1・21 ㊟平安教会で、神の国運動求道者会開 会(出席者約60人)。平安基督教会略史	4・13 ㊟京都教会の紫野集会開始、5・4に は高野講義所が開設。京都基督教会50年史	
1・26 ㊟平安教会学生青年会結成(幹事に稲 田善治・東方信吉・原田信夫・吉田善次郎・中村 正一・越智文夫)。同上	4・15 ㊟京都仏教護国団と各宗本山が後援で 住田英二郎一派(独立座)による「大釈迦劇」を 四条南座で公演。仏教年鑑 昭6	
1・26 ㊟田口勝世、亀岡・園部・殿田・胡麻 ・八木で、日曜学校を中心に「宗教映画の会」を 開催、キリスト一代記などを上映し盛況(～30日)。 丹波基督教会史	4・25 ㊟梅原真隆・玉置裕晃・大原性実・高 千穂徹乗ら、賀茂板倉町(現・小山西元町)に顕 真学苑を開設(真宗教学を中心に仏教文化を研究 し、定期的布教も行なう。10月同苑出版部、月刊 『顕真学報』を創刊)。(2) 同上	
1・一 ㊟㊟昭2・3の丹後地方大震災による 被害、府下の神社352社(被害約146万円)、寺院 134寺(被害約249万円)。復旧資金として、神社 は昭3に政府から30万9,550円を借入れ、寺院は 貸金貸付の途なく復旧のメドたらず。 日出 1・18	4・27 ㊟仏教音楽協会、華頂会館で仏教聖歌 発表演奏会を開催(同会藤岡勝二・音楽家権藤円 立・田中宣子、ピアニスト小松清そのほか市内の 仏教関係諸学校生徒が発表)。同上	
2・4 ㊟中外日報に「マルクス主義より検討 したる宗教」を連載(～13日)。中外 2・4	4・29 ㊟前田慧雲(竜谷大学長)没、74歳。 同上	
2・6 ㊟下田新左衛門、護王神社宮司に就任。 護王神社誌	4・一 ㊟醍醐三宝院で醍醐天皇1000年御忌を 奉修。六大新報	
2・17 ㊟京都市内組合教会有志協議会開催、 市内の組合6教会連合の中核機関として、連合委 員会の設置を決議する。京都基督教会50年史	4・一 ㊟醍醐寺大伝法院落成。同上	
2・一 ㊟聖公会復活教会で、毎月2回(第1 ・第2木曜日)健康相談会を開催。 聖公会京都地方部資料	6・2 ㊟海老沢亮、丹波地方に伝道。この時、 三丹地方の教役者、綾部で「神の国運動」の地方 委員会を組織(この年から3年間、全国新教各派 協同で、「神の国運動」を実施)。丹波基督教会史	
3・8 ㊟京都の日本歴史会、岡崎公園と知恩 院境内で宗教大博覧会を開催、京都市と知恩院が 後援(第1会場岡崎公園、第2会場知恩院にそれ ぞれ宗教館・特設館・地獄極楽館を設立。会長は 服部仁蔵、～5・6)。(1) 日出 1・21、3・8	6・29 ㊟京都普及福音教会の新会堂、野川通 白川上ルに竣工、献堂式挙行。中外 6・28	
3・14 ㊟浄土宗社会事業大会、華頂会館で開 催(第1部社会事業部会長に矢吹慶輝を、第2部 社会教化部会長に椎尾弁匡を推選、同宗執綱渡辺 海旭・同宗管長山下現有ら出席)。 仏教年鑑 昭6、中外	7・15 ㊟同志社校友会編纂『同志社五十年史』 刊。同志社50年史	
3・14 ㊟東本願寺、融和記念日を制定、不当 な差別をうける同朋に対する国民の反省を促し、 諸種施設運動の実行促進を図る。 日出 3・14、仏教年鑑 昭6	10・3 ㊟葛野郡の嵯峨大覚寺の維持と布教・ 教育のため古義真言宗大覚寺護法財団を設立。 仏教年鑑 昭6	
3・25 ㊟大谷大学教授曾我量深の著書『如来 表現の範疇とその三身観』に対し、東本願寺侍董 寮から宗義違反の声が高まってきたため、同教授 辞表を提出。中外 4・15、16	10・19 ㊟浄土宗児童協会発起人会を知恩院で 開催、同会会則を決める(事務所を知恩院浄土宗 務所内に設置)。同上	
3・31 ㊟金光教、東九条教会(5・2 東林教 会、8・12 十条教会、9・11 鹿ヶ谷教会)設立。 金光教年表	10・27 ㊟古義真言宗仁和寺で開山宇多法皇 1000年遠忌法要を勤修。仏教年鑑 昭7	
4・2 ㊟近畿融和事業連盟を奈良県長谷寺で 結成、森府親和会長が委員長となる。東西本願寺 から関係者が出席。同上	10・28 ㊟賀川豊彦、岡崎公会堂で組合教会の 「神の国運動」のために講演(～29日)。 京都基督教会50年史	
4・7 ㊟東福寺開山弁円(聖一國師)650年 忌を東福寺において修す(～17日)。中外 4・3	10・一 ㊟東本願寺の宗学院と宗学研究会が 『宗学研究』(年2回)を創刊。仏教年鑑 昭6	
	11・1 ㊟聖公会聖三一教会の新会堂、中京区 聚楽廻り中町45に竣工、今出川下ル針屋町から移 転(12・20 献堂式)。 日本聖公会100年史、聖公会京都地方部資料	
	11・9 ㊟伏見稲荷神社の向日町神田で、神田 再興第1年の抜穂の儀を行なう。稲荷年表	
	11・29 ㊟上京区の永観堂禅林寺に守良蔵夫妻 記念のため守家記念慈善会を設立。 仏教年鑑 昭6	
	12・25 ㊟護王神社に、大日本護王会結成。 護王神社誌	
	12・一 ㊟東寺食堂焼失。六大新報	

参	考	日	本
(1) 第1会場の岡崎公園第2 勸業館入口には、ロ ーマの寺院建築により円柱3基を立てて神・仏・ 基3教を意味する月輪・卍字・十字の表章をあげ る。第2会場の知恩院の地獄極楽館は、「魔の墓 所」・「不思議の簾」の迷路を辿り「怪寺院」に達 する趣向であった。		1・22 旭憲吉没。	
(2) 顕真学苑：昭4・10に発企、講堂を中心に真 宗学・仏教学・仏教史学・哲学の研究室10室に分 かれ、約8,500冊の書籍を収蔵、春秋2季に学術 公開講座を開催。		1・一 賀川豊彦ら、「神の国運動」を開始。	
		2・11 天理教「よのもと会」発会式。	
		3・1 谷口雅春、「生長の家」を開教、雑誌 『生長の家』創刊。	
		3・28 内村鑑三没(70歳)。	
		3・一 千河岸貫一没。	
		4・11 東京神社社と明治学院神学部合併し、 日本神学校開校。	
		4・13 黒住教教祖降誕150年祭(～16日)。	
		4・20 津田左右吉、『日本上代史研究』刊行。	
		4・29 前田慧雲没。	
		4・一 妹尾義郎、新興仏教青年同盟結成。	
		5・10 日本宗教学会創立。	
		5・16 木村泰賢没(50歳)。	
		6・3 世界宗教平和会議日本委員会成立(国 際連盟協会宗教部の幹旋で、新渡戸稲造らを中心 に)。	
		6・16 金光教独立30年記念大祭(～18日)。	
		7・一 ハワイのホノルルで第1回汎太平洋仏 教青年大会開催。	
		9・19 大本の人類愛善会アジア本部と人類愛 善新聞社、東京へ進出。	
		10・18 東京キリスト教青年会創立50年祝賀大 会、日比谷公会堂で開催。	
		10・18 天理図書館落成式。	
		11・18 牧口常三郎・戸田城聖、創価教育学会 設立。またこの日 牧口常三郎、『創価教育大系』 刊行。	
		11・一 全日本仏教青年会連盟結成。	
		11・一 竹田黙雷没。	
		12・27 菅円吉『基督教の転向とその原理』 (昭6・7・10 中島重『社会的基督教と新らしき神 の体験』、社会的キリスト教運動<S.C.M.>が 盛んとなる)。	
		この年	
		▷ 難波寿一、名古屋で神道大法教会(神道大 教所屬)設立。	
		▷ 松井米太郎(日本聖公会東京教区主教)、 日本人主教としてはじめてランベス会議に出席。	

京 都 府	日 本
<p>1・10 ㊤金光教、丹波橋教会(1・15 六角教会、6・2 西大路教会、6・4 桂教会、7・3 七条教会、10・5 余部教会、10・30 花園教会、12・9 大秦教会)設立。 金光教年表</p> <p>2・22 ㊤天理教洛西支教会新築竣工。 河原町大教会史</p> <p>3・14 ㊤真言宗小野派大本山を山科随心院から讃岐の善通寺へ移し、同派を善通寺派と改称。 官報 1262、日出 6・4</p> <p>3・22 ㊤与謝郡府中村の籠神社、震災の被害箇所を昭2から修復工事にかけ竣工、正遷宮式を挙行。 中外 3・8</p> <p>4・1 ㊤花山火葬場、東西両本願寺の経営から京都市直営となる(市、同場経営に年23,159円を出資)。 日出 4・1</p> <p>4・9 ㊤親鸞の末女覚信尼650年忌を西本願寺で修行(9・10婦人会監督と補事事務担当大会を、9・11 全国寺族婦人大会を、9・12 全国仏教婦人会・仏教青年会などを開催、～12日)。日出 4・9</p> <p>4・9 ㊤光照院門跡ら、常盤会館を開設。 同上</p> <p>4・11 ㊤本門法華宗大本山本能寺で日蓮650年忌を執行、同法要に当たり同寺本堂と諸設備を再建、改築(4・13 同宗本末僧侶懇談会で前管長木村日舜が仏立講に加入したことを討議)。 日出 4・10、12、14</p> <p>4・17 ㊤大谷大学教授23人、辞職(同教授ら、3・21 付告達の真宗大谷派新職制が大谷大学の精神を蹂躪し、大学を政党化するものとし、修正を要求したが、同派宗務局が拒否したことによる。さきに稲葉円成・梶浦貞了・瀧倉雄が辞職)。 日出 4・18</p> <p>4・19 ㊤天理教山国分教会の教祖殿落成。 河原町大教会史</p> <p>4・20 ㊤木村清松、特別伝道講師として丹波地方で講演(～22日)。20日は園部会堂・松山小学校、21日は殿田会堂・胡麻会堂、22日は八木集会所・亀岡会堂。 丹波基督教会史</p> <p>4・25 ㊤綴喜郡田辺町の一休寺で一休450年忌を執行(～29日)。宮内省、香花料100円を下付、このとき一休寺奉讃会を設立し会長に佐上知事を選任、一般有志が約25,000円を寄付。</p> <p>4・一 ㊤護王神社に護王講結成。護王神社誌</p> <p>5・2 ㊤西本願寺の日曜学校課が山科の日野別院に日曜学校を開校。 日出 4・27</p> <p>5・2 ㊤加佐郡志楽村の松尾寺(西国第29番札所)、50年目の秘仏馬頭観音像開帳を執行(～8日)。 日出 4・16</p> <p>5・8 ㊤山科勸修寺管長に下河原の七観音寺住職田村智範を決定。 官報 1306、日出 5・8</p> <p>5・10 ㊤西陣キリスト教会の「神の国運動」で、同志社大学浜田教授ら講演。 日出 5・10</p>	<p>5・14 ㊤東本願寺派僧侶有志が中京区仏現寺で宗門更新連盟を結成。同派本山内局が大谷大学に加わえた措置は、日本教育史上空前の暴挙であり、内局の反動的施政を批判する宣言書を内局に送付することを決議、同連盟事務に藤岡淳・橋川正・山辺習学らと他3人を選出。 日出 5・15</p> <p>5・15 ㊤知恩院内に浄土宗教師養成社を同宗の青年僧侶の地位を向上する目的で設置。 日出 5・15</p> <p>5・16 ㊤檀王法林寺で同寺開山道光600年忌執行、記念に時計塔と図書館を建立。 日出 5・11、15</p> <p>6・1 西本願寺布教部、<反宗教運動>に対する研究・調査とその対策を研究するため第1回会合を開催。 仏教年鑑 昭7</p> <p>6・3 ㊤臨済宗建仁寺派管長に竹田頼川が就任(5・15 選任、7・5 建仁寺に晋山)。 日出 6・18</p> <p>6・6 ㊤本門法華宗管長神原日祐就任。 官報 1331</p> <p>6・7 ㊤浄土宗知恩院、法然降誕800年記念事業として『知恩院史』編さんに着手。</p> <p>6・7 ㊤京都における各種仏教青年会が相互の連絡を密にするため京都仏教青年会連盟を設立。 日出 6・4</p> <p>6・8 ㊤東本願寺が癩患者の予防救護のため真宗大谷派光明会を設立(総裁・大谷智子裏方、会長・宗務総長大谷光瑩)。 日出 4・9、12、6・5、9</p> <p>6・28 ㊤丹波教会園部会堂に牧師館竣工。 丹波基督教会史</p> <p>6・一 ㊤智積院に智山教化事業連盟を設立(これまでの真言宗智山派の社会事業協会と伝道会を合併)。 日出 6・25</p> <p>7・5 ㊤聖公会復活教会が鷹ヶ峯南半町の浅井末吉宅に日曜学校を開く。 聖公会京都地方部資料</p> <p>7・18 ㊤真宗大谷派内局辞職のため同派総長に阿部恵水を選任。 日出 7・17、19、23</p> <p>7・18 ㊤知恩院庶務部長の寺西聴学が宗教劇団を組織し、自作「法然上人」を亀岡町亀岡座で上演、ついで24日から京都市内南座で上演。 日出 7・20</p> <p>7・一 ㊤相楽郡木津町東方墓地が人家に接近しているためこれを整理し、公園を設置、3,000余の石碑を新墓地に移す。 日出 7・13</p> <p>7・一 ㊤聖公会宮津聖アンデレ教会に定住牧師(小柴早次)が置かれる。 聖公会京都地方部資料</p> <p>8・16 ㊤反宗教闘争同盟、三条青年館で反宗教闘争演説会を開催、ナップ京都地域協議会・産業京都出張所・全京都左翼各労働組合・農民組合・その他無産各団体が同会を後援、聴衆1,000人、数人の検束者が出る。 日出 8・16</p>
<p>8・22 ㊤大谷大学長事務取扱阿部恵水が本山東本願寺各参務の審議により、大谷大学新職制を制定し、この日発表。 日出 8・22</p> <p>9・6 ㊤橋川正没、38歳(大谷大学仏教史教授・常葉幼稚園長)。</p> <p>9・23 ㊤天理教河原町大教会が史料集成部を設置(主任深谷松三郎、部員上川敏男・片山俊次・西井道一、昭7・4・22『河原町大教会史』の編纂に着手)。 河原町大教会史</p> <p>10・10 ㊤東山霊山官祭招魂社、下賜された御大札用材で社殿を新築落成、竣工奉告祭執行。 日出 10・11</p> <p>10・14 ㊤密門快菴、古義真言宗勸修寺派総長に当選、11・8 勸修寺に晋山。 仏教年鑑 昭8、日出 11・9</p> <p>10・22 ㊤鞍馬の火祭を、鞍馬村の農民が不景気のため、この年のみ中止することになる。 日出 10・19</p> <p>10・25 ㊤楠公社、蹴上大神宮内に建立、竣工奉告祭を挙行。 日出 4・26、10・22</p> <p>10・31 ㊤知恩院管長山下現有、法然800年記念事業として仏式結婚による信仰的家庭を建設する旨、訓示。 日出 11・1</p> <p>10・一 ㊤京都師団国防思想普及研究会、1府2県の神官・僧侶273人に対して国家観念の普及と国防思想の宣伝に努力しよう懇談。 日出 10・10</p> <p>11・18 ㊤梅尾高山寺で明恵700年忌を執行、京都博物館で明恵に関する国宝108点を展覧。 日出 11・18</p> <p>11・27 ㊤赤井義道(南禅寺管長)、宗教界最初の満州派遣軍慰問に出発。 仏教年鑑 昭8</p> <p>12・7 ㊤大野法音(浄土宗大本山清浄華院法主)没(76歳)。 日出 12・9、同上</p> <p>12・8 ㊤竜谷大学の仏教青年会を設立、昭7・1・8 発会式を挙行。 同上</p> <p>12・12 ㊤稲荷講社講師石井鹿之助、白峰宮宮司に就任。 稲荷年表</p> <p>12・24 ㊤聖公会聖アグネス教会の設立許可。この頃の聖アグネス教会の信徒数は212人、そのうち男子は10人、婦人会・日曜学校・聖歌隊・聖壇会・求道会がある。 聖公会京都地方部資料</p> <p>12・一 ㊤日本戦闘的無神論者同盟京都支部結成準備会開催。 仏教年鑑 昭8</p> <p>この年 ▷ ㊤京都教会の浄土寺聖書会・五条聖書会、廃止。 京都基督教会50年史</p>	<p>3・16 本多日生没(65歳)。</p> <p>3・一 日本聖公会第1回全国青年大会開催。</p> <p>4・3 日本全仏教青年連盟創立大会。</p> <p>4・7 秋田雨雀・川内唯彦らプロレタリア科学研究所内にあった唯物辯証法研究会のメンバーを中心に反宗教闘争同盟準備会を設立し<反宗教運動>おこる)。11・6『戦闘的無神論者』創刊。</p> <p>5・18 東京で日本宗教平和会議開催(～20日)。</p> <p>6・19 建国会本部、全国宗教擁護同盟の趣意書宣言を発表。</p> <p>6・27 反宗教運動折伏連盟、宣言および綱領を発表して反宗教運動に対し折伏対治運動をおこす(11・25 結成大会挙行)。</p> <p>7・23 日本仏教連盟、反宗教運動の対策協議会を開催。</p> <p>9・10 宇野円空、『宗教学』刊行。</p> <p>9・20 反宗教闘争同盟結成大会、東京築地小劇場で開催されたが治安を紊乱するものとして直ちに解散を命ぜられ約30人が検束される(21日「時局批判」と改称して反宗教闘争演説会開催、十数人が検束される)。</p> <p>9・一 反宗教同盟、「日本戦闘的無神論者同盟」と改称。</p> <p>11・1 高津正道らによる日本反宗教同盟、東京上野公園自治会館で結成大会挙行(10・1 機関紙『反宗教』創刊)。</p> <p>11・10 日本基督教連盟第9回総会(～11日)、満州事変に関する声明書を発表。</p> <p>11・20 望月信亨、『望月仏教大辞典』(～昭40・4・25、10巻)刊行。</p> <p>12・31 石川舜台(前東本願寺寺務総長)没、90歳。</p> <p>この年 ▷ 石黒蒸、御岳教天常教会を設立(昭23、御岳教から独立)。 ▷ 深田長治、円応修法会設立。 ▷ 前田英利、光照会(大道教会の前身)設立。 ▷ 全国に聖公会協力伝道実施。 ▷ 人道德光教、「ひとのみち」と改称。</p>

京 都 府	京 都 府
1・13 ㊤妙心寺宗務総長に古川大航を選任。 仏教年鑑 昭8	6・18 ㊤嵯峨日蓮宗常寂光院境内地を遊園地にする目的で、開運の滝開きを行なう。 仏教年鑑 昭8
1・14 ㊤聖公会復活教会が、上京区紫野御所田町に約540坪を購入(2・1 会堂の仮建築に着手、4・5 移転)。 聖公会京都地方部資料	6・18 ㊤東海東達、臨済宗妙心寺派管長に就任、7・1 妙心寺に晋山。 官報 1640、仏教年鑑 昭8
2・1 ㊤真宗興正寺本山改革を唱える改新会結成。 仏教年鑑 昭8	6・一 ㊤丹波教会の佐藤牧師により、和知に伝道開始される。毎月第3木曜日に和知駅前の猪奥勇吉方で集会が持たれる。 丹波基督教会史
2・19 ㊤聖公会伏見教会が、桃山長岡越中7番地に移転。 聖公会京都地方部資料	7・1 ㊤上川米太郎、『みかぐら歌私解』(天理教)刊、また9・7「おたすけ実要」第1輯(昭8・10・20 第6輯まで)刊。 河原町大教会史
2・28 ㊤伏見稲荷神社で武運長久祈願祭執行、特別神符103体・武運長久御守15,000体を第16盃団に授与、3・30 にも15,000体の御守を授与。 稲荷年表	7・4 ㊤黄檗宗管長に関義道を選任、11・23 宇治万福寺に晋山。 仏教年鑑 昭8、9
3・3 ㊤大谷光演(東本願寺前門主)の個人破産に対する強制和議が認可される。 仏教年鑑 昭8	7・14 ㊤護王神社に、大日本護王婦人会結成。 護王神社誌
3・31 ㊤臨済宗大学長に後藤瑞巖が決定。 同上	9・3 ㊤松村清次、南桑田郡馬路村で馬路共励会を組織、求道青年十数人。 丹波基督教会史
3・一 ㊤大谷大学図書館が『西藏大蔵経甘珠爾目録』を刊行。	9・3 ㊤空也堂極楽院住職葛原定齋ら17人、在満軍慰問のため満州で六齋念仏を行なう。 仏教年鑑 昭8
4・3 ㊤伏見醍醐寺上醍醐の国宝建造物五大堂を焼失。 仏教年鑑 昭8、中外	9・上 ㊤京都府神職会の北満兵士への慰問袋。府下各地から2万個以上集まる。 中外 9・2
4・6 ㊤法然降誕800年慶讃法要を知恩院で執行(10日)。 華頂	9・20 ㊤臨済宗天竜寺派管長に関精拙(清拙を改称)が再任。 官報 1704、1720
4・8 ㊤浄土宗が児童教化事業従業者大会を華頂高等女学校で開催(渡辺海旭ら、児童から青年への教化方法・児童教化に労働教育を取入れる方法・児童を通じての家庭浄化などを決議)。 仏教年鑑 昭8	9・23 ㊤賀川豊彦、同志社栄光館で講演(～24日)。 京都基督教会50年史
4・18 ㊤京都方面委員の野田義成・尾田隆台諒・尾川心静ら、仏教徒方面委員会を設立。 同上	9・26 ㊤新京極誓願寺本堂焼失。日出 9・27
4・27 ㊤上村邦良、京都市内組合教会連合集会に招かれ「マルクス主義と基督教」と題して連続講演(～29日)。 京都基督教会50年史	9・29 ㊤大谷大学の鈴木・阿部・西谷・横川・岩井の諸教授が同大学独自の宗教学会を設立。宗教を科学・芸術などから総合的に研究。 仏教年鑑 昭8
5・7 ㊤同志社栄光館で、大伝道講演会開催(～8日)、海老名正講演。 熊本バンド研究、京都基督教会50年史	10・4 ㊤越智道順・山崎精華・山田竜城・井部仁三・後藤忠雄ら、仏教教理を現代的に再認識するため六角会館で仏教批判研究会を開催。 仏教年鑑 昭7
5・18 ㊤天理教第1回全国ひのきしんデー(京都市内では、各分支会から約1,000人参加、岡崎・円山両公園の清掃をハッピーで行なう)。 河原町大教会史	10・7 ㊤『密教大辞典』を京都専門学校(東寺)から刊行、編纂主任は同校教授小田慈舟。 仏教年鑑 昭8
5・23 ㊤日本宗教演劇連盟、京都市公会堂で「親鸞は生きている」を上演。 仏教年鑑 昭8	10・7 ㊤大谷大学・同志社大学・京都帝国大学で京都学生排酒連盟を結成。特に大谷大学で禁酒禁煙会を組織し、25歳禁酒法案獲得署名運動をおこす。 同上
6・5 ㊤和田大円没、74歳(真言宗山科派前管長、勧修寺門跡、与謝野鉄幹実兄)。 同上	10・15 ㊤日本仏教エスペランティスト連盟を円山公園児童博物館で結成(大谷大学・竜谷大学のESP語研究会員がESP語による仏教の国際的宣伝と仏教界にESP語を普及するための機関紙の発行を決議)。 同上
6・8 ㊤和気公1200年祭奉賛会結成。 護王神社誌	10・22 ㊤仁和寺大蔵会開催、同会展示品は仁和寺門跡秘蔵と塔中蔵から国宝その他貴重図書で学界初公開のもの。 同上
6・14 ㊤新島八重(新島襄の未亡人)、寺町通丸太町上ルの自邸で没(88歳)。同志社90年小史	

京 都 府	日 本
10・30 ㊤『荷田全集』完成、東丸神社で奉告祭執行。 稲荷年表	1・13 日本戦闘的無神論者同盟東京府連合会、『曉鐘』を創刊。
11・1 ㊤同志社は、日本組合基督教会・日本基督教同胞会・アメリカン=ボード日本ミッションとの間に神学教育の充実発展に関する協定を締結、神学教育協力委員会を組織。同志社90年小史	2・3 リデル女史(聖公会)没。
11・1 ㊤大本が昭和坤生会を結成。 大本70年史	2・16 反宗教思想撲滅大衆同盟準備会、『宗教科学』(月刊)を創刊し、労農大衆獲得活動をはかる。
11・9 ㊤第1回市民福音学校、京都教会で開催(11・27まで毎週水曜日の夜)、平均43人出席。 京都基督教会50年史	3・10 矢内原忠雄、『マルクス主義と基督教』刊行。
11・20 ㊤綴喜郡八幡円福寺境内に外人禅道場が落成。 仏教年鑑 昭9	4・1 友松円譚、仏教社会科学研究会を仏教法制経済研究会と改称、東京京橋区銀座西5丁目に同研究所を新築。
11・29 ㊤金光教、梅津教会設立。金光教年表	4・16 日本戦闘的無神論者同盟、6・30 までを宗教的団体撲滅期間と定める。
11・29 ㊤新島会館が新島旧邸敷地内に竣工、開館。 同志社90年小史	5・18 天理教全国一せい「ひのきしんデー」(以後毎年実施)。
12・2 ㊤京都における仏教エスペラント4団体が京都仏教エスペラント会を結成。 仏教年鑑 昭9	5・一 佐伯定胤、法相宗管長に就任。
12・6 ㊤「京都悟りの会」を京都市公会堂で開催。鈴木大拙が「釈尊の成道」の講演、リンデン合唱団の演奏、聖歌合唱団の合唱など行なう。 仏教年鑑 昭8	6・23 国民精神文化研究所を設置。
12・8 ㊤京都仏教倶楽部を円山公園の仏教児童博物館を本拠として設立。実行委員は漆葉見竜・山名義順・奥博良・藤音得忍・武内義尚・近藤与治郎・足利浄円の7人。 同上	7・19 桐谷洗鱗没。
この年 ▷ ㊤北海道大飢饉罹災者救恤のため仏教諸団体(とくに大谷大学東北会・大谷健児会・北海道会の大谷大学学生団が組織する凶作地救援会)が義捐金募集に活躍。 同上	7・一 日本反宗教同盟孟蘭盆反対闘争の主張を発表。
	8・18 天理教第1回「全国路傍講演デー」(以後毎年実施)。
	9・20 宇井伯寿、『印度哲学史』刊行。
	9・25 工藤慧連没。
	9・一 上智大学生の一部、靖国神社礼拝を拒否し問題化。
	10・一 仏教連合会、インドのベナレスにある初転法輪寺に梵鐘を寄贈。野生司香雪、同寺の壁画揮毫のため渡印。
	11・4 国学院大学内の皇典講究所、創立50年記念式。
	この年 ▷ 文部省宗教局、宗教研究行政会を設立。 ▷ 石井岩吉、心霊会(心霊教団の前身)設立。 ▷ 谷口雅春、『生命の実相』刊行。

京	都	府
1・11 ㊟金光教、墨染教会(1・30 西七条教会、2・10 鶴ヶ岡教会、10・3 鷹ヶ峰教会、10・27 淀町教会)設立。 金光教年表	4・19 ㊟西本願寺満洲国開発学生を屯田学生式にのつとり募集、先ず大谷光瑞に従い30人出発。 仏教年鑑 昭9	
1・11 ㊟京都市社会課、社事教会境内地の社会事業的利用についての調査を実施。 仏教年鑑 昭9	4・20 ㊟柳田暹暉(聖護院門主、天台宗寺門派管長)没、63歳。 同上	
1・25 ㊟丹波農民福音学校、園部会堂に開校(〜27日)、生徒は男女・正科傍聴講を加わえて21人、校長・伊藤勝義牧師、主事・佐藤茂見伝道師。 丹波基督教会史	5・3 ㊟京都仏教クラブ、日印問題講演会を開催、井川定慶の発議で京都に日印協会を設置することを決議。 同上	
1・25 ㊟井上日光、本門法華宗管長に就任。 仏教年鑑 昭9	5・4 ㊟仏教音楽協会京都支部、京都聖歌研究会を結成することを決議。 同上	
1・28 ㊟㊟仏教学者と基督教学者が共同で新島会館において宗教研究会を開催。 日出 1・19	5・23 ㊟住田英二郎らの独立座(宗教劇団)、南座で公演、武田豊四郎舞台指揮・住田英二郎作の「親らんと弁円」などを公演(昭5 同劇団第1回公演以来4年ぶりで来京)。 日出 5・22	
2・3 ㊟大本が綾部に皇道大本総本部を復帰させ、亀岡天恩郷に皇道大本本部を設置、全国に2,000の分所支部を置く。 日出 1・26、大本70年史	5・30 ㊟同志社教会で春期特別伝道講演会開催(〜6・3)、大阪天満教会の木村清松牧師講演。 同志社教会90年小史	
2・7 ㊟天理教河原町大教会の深谷徳郎、満洲に天理村建設のため、松村義高(高安大教会長)と共に渡満、土地買収契約をすます。 河原町大教会史	5・一 ㊟山辺習学(前大谷大学教授)ら、京都に仏教文化協会を設立、今熊野に仮事務所を設立。 ⁽²⁾ 日出 5・17	
2・9 ㊟東本願寺、満洲開発の人材養成のための満洲拓事講習所の規程を発令。 仏教年鑑 昭9	6・3 ㊟スワラジ劇団(一灯園)、華頂会館で欠食児童救済のため上演。 日出 5・22	
2・21 ㊟府、府下で貴重な建造物・宝物を有する神社寺院に対して火災盗難の防止を促す旨、市町村長あてに通牒。 府通牒 8社 201号	6・11 ㊟聖公会聖ヨハネ教会のニレー女史、老齢のため帰国、送別礼拝を行なう。 聖公会京都地方部資料	
3・2 ㊟東本願寺の満洲屯田僧30人出発。本山大寝殿にて法主の親示式を挙げ、僧達独特の屯田僧衣を着して臨む。 仏教年鑑 昭9	6・19 ㊟京都仏教徒方面委員会第1回総会開催、会長木村忠二郎・府社寺課長を座長にカード階級信仰調査に関する件など協議。 仏教年鑑 昭9	
3・4 ㊟醍醐寺布教班、東北震災罹災者救恤のため市内数カ所で街頭資金を募集。3・18 日蓮宗各派16本山貫首ら、同救恤のため托鉢。 仏教年鑑 昭9	6・26 ㊟日下俊隆、浄土宗西山光明寺派管長に選任、7・26 光明寺に晋山。 同上	
3・7 ㊟府、神社寺院などの用に供する不動産取得に対し雑種税免税しない旨通牒。 府通牒 8庶 272号	7・23 ㊟岡崎公会堂で汎太平洋仏教青年会を開催。 仏教年鑑 昭10	
3・一 ㊟皇道大本、国体明徴運動を展開。 大本70年史	8・8 ㊟堂本印象揮毫の洛東東福寺法堂天井画竜の点睛式を執行。 仏教年鑑 昭9	
4・2 ㊟西本願寺法主、国際連盟離脱の聖勅を奉じ、国家の恩に報ずべき旨の直諭を発す。同趣旨の通達、4・5 妙心寺管長、4・27山階派管長も発す。 仏教年鑑 昭9	8・18 ㊟天理教が路傍講演を実施、河原町大教会は、荒神橋西詰で行なう。 河原町大教会史	
4・8 ㊟京都市仏教方面委員、釈尊降誕会でカード階級5,000人を市公会堂に招待し精神教化を実施。 仏教年鑑 昭9	9・12 ㊟山崎大耕、臨濟宗相国寺派管長に就任(5・22 選任、10・1 相国寺に晋山)。 官報	
4・11 ㊟真宗東本願寺派大谷光照の第23世伝灯報告会執行。 仏教年鑑 昭9、日出 4・12	10・3 ㊟京都日印協会、発起人会と発会式を挙行。 仏教年鑑 昭9	
4・18 ㊟真宗史学大成者山田文昭(前大谷大学教授)没、57歳。 ⁽¹⁾ 仏教年鑑 昭9	10・6 ㊟組合教会総会、京都で開催(〜10日)。8日には同志社宗教音楽協会が「メシヤ」演奏、9日には京都市内で開催中の日本基督教会大会議員と組合教会総会代員との晩餐会・両教会信徒大懇談会開催。京都基督教会50年史、熊本バンド研究	
	10・9 ㊟京都仏教徒方面委員会、全国仏教方面委員懇談会を開催し同会全国連盟設立。 仏教年鑑 昭9	

参	考	日	本
(1) 山田文昭：明10・12・9生まれ。大1・9 大谷大学図書館長兼教授に就任。著書に『真宗史稿』、『真宗史の研究』、『日本仏教史の研究』、『本願寺誌要』などがある。		1・1	小野玄妙編『仏書解説大辞典』(〜昭11・11、12巻)刊行。
(2) 仏教文化協会：仏教の海外宣伝と仏教の民衆化によって京都市が日本仏教の中心であるとともに全世界に仏教を普及させる仏教文化の一大中心となることを企図。 日出 5・17		1・25	高楠順次郎の『大正新修大蔵経』完成に対して朝日新聞社賞授賞。
		1・26	渡辺海旭没(62歳)。
		4・1	重要美術品等の保存に関する件公布。
		4・17	『真言宗全書』(〜昭14・5、44巻)刊行。
		5・24	文部省、わが国で初めて宗教事務および国宝重要美術保存に関して各府県宗教事務主任者を召集し協議会を開催(〜26日)。この中で反宗教運動の取締りを指示。
		5・一	米国聖公会総裁主教のペリー来日。
		6・7	立教大学でオックスフォード運動100年祭(〜9日)。
		6・一	聖ルカ国際メディカルセンター本館献堂式。
		10・4	金光教教祖50年記念大祭。
		10・15	新渡辺稲造、カナダで客死(72歳)。
		11・11	境野黄洋没。
		この年	▷ わが国の国際連盟脱退(3・27)に対し各宗本山聖旨奉体の告示を発す(3・27古義真言宗・真宗各派連合、3・28曹洞宗、4・10天台・浄土宗)。
			▷ 仏教各派満洲開教に力を注ぐ(5・26天台宗新京に天台村建設、6・9曹洞宗新京別院等建築)。
10・14 ㊟京都仏教護国団、宗教法制定・寺院法律問題を処理する目的で研究所を設立(浅田暢一郎・今井梅次郎・松田貞利ら弁護担当)。同上		10・15	㊟天理教淀分教会、大阪市の北大教会所属から分離し本部直属教会となる。天理教要覧
		10・18	㊟出口王仁三郎、「天祥地瑞」の口述を開始。 大本70年史
		11・10	㊟左京区吉田中阿達町20の普及福音会館でマルチン=ルター生誕450年記念の夕開催、ルター伝の幻灯など行なう。 中外 11・9
		11・12	㊟京大楽友会館で、基督教靈化運動主宰の武本喜代蔵を中心とするリバイバル運動開催。 同上
		11・26	㊟平安教会で、ルター生誕450年記念講演会を開催。 平安基督教会略史
		11・一	㊟加藤至道、臨濟宗南禅寺派管長に就任(2・14 選任)。 官報
		12・15	㊟仏教保育協会(会長安藤正純)の各宗代表者会議を開催。 仏教年鑑 昭10
		12・19	㊟仁和寺門跡に岡本慈航を選任(1・20 仁和寺に晋山)。 同上
		12・一	㊟松岡寛慶、臨濟宗大徳寺派管長に就任(昭9・2・21没)。 官報
		この年	▷ ㊟京都教会では、出雲路・伏見・吉田・城北の4 聖書研究会を開始。聖公会聖ヨハネ教会では、青年が路傍伝道を開始。京都基督教会50年史

京	都	府
1・14 ㊤同志社基督教教会婦人会の発会式挙行、17人出席。 同志社教会90年小史	7・9 ㊤佐伯恵眼（醍醐寺塔頭理性院）、真言宗醍醐派管長に就任、11・18 醍醐寺晋山。 仏教年鑑 昭10	
1・26 ㊤臨濟宗妙心寺派天岫接三、新内局成立。 仏教年鑑 昭10	7・11 ㊤西本願寺勤勞婦人会、顕道会館で開催。 同上	
1・27 ㊤鹿ヶ谷の仏教専門学校（現仏教大学）鷹野北町に移転。 中外 1・28、昭8 文部省告示321号	7・13 ㊤浄土宗京都教務所、寺院国有境内地処分問題について特別委員会を開催。 同上	
2・4 ㊤聖公会聖三一教会の信徒総会は、教会自給案を可決、5年後に自給を断行することになり教会費2割増などを決定。 聖公会京都地方部資料	7・17 ㊤浄土宗百万遍知恩寺法主に杉山大連選任。 同上	
2・4 ㊤大覚寺門跡竜池密雄（古義真言宗管長）没。	7・19 ㊤大谷光瑞、大連へ出発。 同上	
2・13 ㊤真言宗醍醐派管長平之亮禅没、75歳。 仏教年鑑 昭10	7・22 ㊤後藤瑞巖ら、南禅寺で参禅実地講習会を開催。 同上	
3・8 ㊤大本が、『人類愛善新聞』100万部の頒布を達成。 大本事件史	7・22 ㊤大本が、昭和神聖会を結成、東京で発会式。8・12、京都本部発会式を岡崎公会堂で挙行（会衆約3,000人）。 日出 8・13	
3・9 ㊤大工原銀太郎（同志社総長）没。 同志社90年小史	7・24 ㊤府、寺院境内地目的外使用の整理と取締りに留意するよう市区町村長あてに通牒。 府通牒 9社1610号	
3・14 ㊤西本願寺融和団体一如会、この日を融和記念日に指定するよう訓告。 仏教年鑑 昭10	8・2 ㊤文化時報社、知恩院山内で各派権威者を招き、境内地問題座談会を開催。8・6 仏教連合会、境内地問題協議会を永観堂禅林寺で開催。8・20 国有寺院境内地使用問題について組織する京都特別委員総会を建仁寺で開催。 仏教年鑑 昭10	
4・1 ㊤真宗仏光寺 中興了源 600年忌法要執行（このとき阿弥陀堂安置の聖徳太子像胎内文書発見し同像が元応2鎌倉時代の作と判明）。 仏教年鑑 昭10、中外 4・1、3	8・12 ㊤聖護院門跡、役行者生誕1300年記念に大峰山頂に7万人による仁王護国経の写経12銅篋を埋経。 中外 8・10、12、仏教年鑑 昭10	
4・1 ㊤伏見稲荷神社が、就学児童用修身教科書3,800余冊を氏子に配布。 稲荷年表	8・15 ㊤稲荷山上に禊道場竣工、道場開きを行なう。 稲荷年表	
4・3 ㊤京都仏教倶楽部と京都日印協会が仏誕2500年記念として大丸で大釈迦展を開催（～8日）。 中外	8・21 ㊤府、社寺有林と私有林の造林を奨励。 府令35号	
4・11 ㊤知恩院門跡山下現有没（103歳）。 仏教年鑑 昭10	8・30 ㊤百万遍知恩寺住職に桑田寛随を選任。 仏教年鑑 昭10	
4・12 ㊤東寺で空海1100年忌執行（～21日）。50年目に1回の准御齋会の古式に則ったり庭儀舞楽大曼荼羅供執行、4・13 松永管長導師で食堂落慶式執行。 中外 4・12、14、六大新報	9・5 ㊤西本願寺、釈放者保護事業を發展させるため大阪市小西瀧蔵寄進の小西成功館を本願寺成功館と改称。 同上	
4・17 ㊤金戒光明寺本堂・勅使門など全焼（昭11・4・20大方丈落成）。 仏教年鑑 昭10、12	9・12 ㊤西本願寺第1回女子仏青指導者訓練所を山科別院で開く。 同上	
5・6 ㊤大報恩寺（千本釈迦堂）、本尊釈迦牟尼仏を開帳。 仏教年鑑 昭10	9・15 ㊤竜池無料相談所（大雲院内）、京都仏教護国団の経営で開設。 同上	
6・4 ㊤臨濟宗東福寺管長に尾関本孝を選任。 同上	9・21 ㊤室戸台風により、社寺の被害甚大（伏見稲荷神社では稲荷山の森林・大鳥居など倒壊。八坂神社、本殿の屋根の一部破損。下鴨神社の糺の森はほとんど全滅し社務所玄関など大破。上賀茂神社、樹木全滅。豊国神社、透塀倒壊。建勳神社、大鳥居大破し手水舎倒壊。北野神社、梅園・巨木ほとんど全滅。各社とも本殿は無事）。 中外 9・23	
6・8 ㊤寺岡不説、黄檗宗総長に就任。 同上	9・23 ㊤伏見稲荷神社の清明舎建設竣工、奉告祭を執行。 稲荷年表	
6・12 ㊤高岡隆心、古義真言宗管長に就任。 官報 2234		
6・18 ㊤真宗大谷派青年僧侶、東山大谷祖廟で同派青年革新同盟を結成。 仏教年鑑 昭10		
7・4 ㊤国有財産調査会・大蔵省・文部省、国有境内地目的外使用整理を行なう方針で市内13カ寺調査を開始（～6日）。 同上		

京	都	府	日	本
9・24 ㊤関西「神の国運動」修養会、京都教会で開催。多田素を招き礼拝・懇談・講演を行なう。 京都基督教50年史			1・16	加藤勇次郎（熊本バンド）没。
9・一 ㊤家永一道、臨濟宗東福寺派管長に就任。昭11・4・17東福寺に晋山。 官報、仏教年鑑 昭12			1・29	道重信教没。
10・1 ㊤海老名弾正、京都市内組合教会連合の招きで入京、京都教会で「日本精神と基督教」と題して講演、聴衆300人。 京都基督教50年史、平安基督教略史			2・9	権田雷斧没。
10・4 ㊤岩井智海、浄土宗管長に就任認可。 官報 2329			2・23	和田正修（熊本バンド）没（76歳）。
10・一 ㊤嵯峨天竜寺多宝塔落慶。 中外			4・4	中野達慧没。
11・7 ㊤仏教連合京都出張所、寺院境内地特別委員総会を開催（各委員による市内各宗派寺院中国有境内地目的外使用に 関係ある 100余カ寺調査書提出を決定）。 仏教年鑑 昭10			4・一	天理村開拓事業大綱決定、移民募集を開始。
11・7 ㊤新京極誓願寺阿弥陀如来像開眼会を執行。 仏教年鑑 昭11			6・26	天理教教学審議会設立。
11・14 ㊤西本願寺で近畿融和連盟研究会を開催。 同上			6・一	天理教アメリカ伝道庁設置。
11・16 ㊤京都市内日蓮宗信者の有力者天野治兵衛・岡本仁兵衛・西林吉右衛門ら日蓮宗信徒連盟を結成、この日岡崎公会堂で発会式と第1回総会を開催。 仏教年鑑 昭11			7・22	大本の昭和神聖会、東京で発会式。全国に運動を展開。
11・19 ㊤京都寺院境内地特別委員会、永観堂で京都・東京・大阪仏教徒の寺院国有境内地問題懇談会を開催。 仏教年鑑 昭10			8・26	天理教台湾伝道庁設置。
11・20 ㊤京都仏教護国団の醍醐養老院落成。 仏教年鑑 昭11			9・一	聖公会聖ヨハネ修士会発足。
11・20 ㊤京都教会で、覚醒週間（11・18～24）の期間に家庭集会をもち、会員の再教育・再訓練が行なわれる（～23日）。 京都基督教50年史			10・25	天理教本部神殿落成奉告祭。
11・24 ㊤京都仏教青年・関西仏教青年両連盟、成道会を華頂会館で開催。 仏教年鑑 昭11			10・27	ひとつのみち大道場、大阪府布施に完成。
11・25 ㊤京都仏教徒方面委員会、智積院で市内宗立専門学校以上の学生有志を集め社会事業座談会を催す。 同上			10・一	天理教よのもと会創立。
11・一 ㊤家政高等女学校長大島徹水、増上寺法主に就任。 仏教年鑑 昭10			10・一	宇井伯寿・多田等観、『西蔵大蔵経総目録及索引』刊行。
12・12 ㊤真宗大谷派市内寺院、融和事業懇談会を富小路徳正寺で開催。 仏教年鑑 昭11			11・4	第1回天理村開拓団、満州へ出発。
12・14 ㊤真理運動京都同信総会、岡崎公会堂で開催。 同上			11・25	生長の家、東京に進出、光明思想普及会設立。
12・28 ㊤西本願寺大書院庭園、名勝史蹟に指定。 府公報			12・一	仏誕2500年記念仏教学大会、東京帝大で開催。
12・29 ㊤京都仏教徒方面委員、7,000のカード階級者に更生カードを配布し精神教化の講演会を開催。 仏教年鑑 昭11			この年	
12・30 ㊤西本願寺女子仏教青年婦人会淳風看護婦会、京都市内カード階級に雑煮餅と馳走を送る。 同上			▷ 岡田茂吉（世界救世教開祖）、大本教を脱退、大日本観音会（世界救世教の前身）を設立。	
			▷ 友松円諦の真理運動盛んとなる。	

京	都	府
1・9 ㊤一灯園スワラジ劇団、台湾満州へ長期巡行に出発。 仏教年鑑 昭11		5・12 ㊤「朗らかなる仏青の集い」としてサンガ、アソカ会、浄土宗伝通会館で挙行（会長木村玄俊）。 仏教年鑑 昭11
1・23 ㊤竜谷大学図書館起工式、光照法主を迎えて挙行。 同上		5・14 ㊤西本願寺婦人会、五条署管内カフェ一女給連の矯風会結成。 同上
1・25 ㊤真宗大谷派3機関合同会議で大谷光演（句仏）を無条件に同派僧籍に復帰することを決議（2・7 復籍最初の出座）。 同上		5・21 ㊤高雄山神護寺金堂・多宝塔落成式、弘法大師1100年記念法要をかねて行なう。 中外 5・21、仏教年鑑 昭11
1・26 ㊤京都の臨済宗各派共同経営の紫野中学校、前年8・22の決議を変更し昭14で廃校することを決定。 仏教年鑑 昭10		5・30 ㊤鈴木法深没、84歳（真宗西本願寺勤学・仏教大学長）。 仏教年鑑 昭11
1・29 ㊤京都仏教護国団長大西良慶、聖徳太子批議問題で貴族院議員を訪問し政府の対策を質す。 仏教年鑑 昭11		5・一 ㊤同志社高等商業学校柔道部の学生、武道場に神棚を祀ったが、同志社当局これを撤去したため配属将校、一部学生と呼応しこの処置を反国体的として、学校からの引きあげを決行。 同志社90年小史
2・1 ㊤真言宗智積院最初の仏前結婚式執行。 同上		6・20 ㊤河野霧海没、72歳（臨済宗南禅寺前管長・南禅寺僧堂師家）。 仏教年鑑 昭11
2・3 ㊤鈴木諦教、浄土宗西山深草派管長に就任、3・4 誓願寺に晋山。 官報 2434		6・21 ㊤府、寺院または寺院住職が町村経済更生に活躍した事例、宗教が町村経済更生に及ぼした影響を報告するよう市町村長あてに通達。 府通牒 10農 3373号
2・4 ㊤西大谷本廟守真所起工。 仏教年鑑 昭11		6・22 ㊤日華仏教研究会の大西良慶（清水寺住職）、渡支。 仏教年鑑 昭11
2・9 ㊤真理運動京都連合支部結成。 同上		6・22 ㊤臨済宗大徳寺派管長に太田常正を選任、11・9 大徳寺に晋山。 仏教年鑑 昭10、11
2・11 ㊤湯浅八郎、第10代同志社総長に就任、4・28に就任式を行なう。 同志社90年小史		6・26 ㊤殉職警官をまつるため、府庁入口東側に招魂社を建立、地鎮祭を挙行（7・中 竣工、社域11坪）。 日出 6・26
2・24 ㊤西本願寺京都教務所、山科別院で農民学校を開催。 仏教年鑑 昭11		6・28 ㊤西日本の豪雨により京都市内の浸水家屋数千にのぼる。伏見稲荷神社では29日に付近の罹災者30人を収容。洛北の貴船神社では、山崩れと貴船谷の氾濫のため、末社梶取神社が流失し職員住宅・禰宜住宅など泥土に埋没。 中外 6・30、7・4
3・9 ㊤府下風水害28カ寺に府庁内で復興費を下付。 仏教年鑑 昭11、中外		7・2 ㊤大和の天理教校別科生700人、京都天理教洗心会員400人と共に、京都市内で水害のひどかった木屋町三条以南五条まで「ひのきしん」を行ない、堆積した泥土の一掃につとめ、3日は五条以南を行なう。 中外 7・3
3・11 ㊤東本願寺真身会と西本願寺一如会の融和事業懇談会、枳殻邸で開催。 仏教年鑑 昭11		7・7 ㊤平安教会の教会堂修繕落成。 平安基督教会略史
4・12 ㊤西本願寺社会事業協会設立。 同上		7・21 ㊤今出川円信没、64歳（青蓮院門跡）。 仏教年鑑 昭11
4・14 ㊤竜谷布教協会設立、会長原田了哲。 同上		7・22 ㊤大本の昭和神聖会創立1周年（地方本部25、支部414、賛同者署名約800万）。 大本事件史
4・14 ㊤西本願寺関係諸学校、竜谷大学講堂で学生仏教青年会連盟を結成。 同上		8・1 ㊤墓地および埋葬取締細則の一部改正。 府令56号
4・17 ㊤醍醐寺霊宝館の宝聚院落慶式を執行。 同上		8・3 ㊤大谷大学農村問題研究会主催、農村指導者講習会を山科別院で開催。 仏教年鑑 昭11
4・18 ㊤知恩院設立平安養育院(財)創立30周年記念式典挙行。 同上		
4・25 ㊤西本願寺社会部、農繁期託児事業講習会巡回を開始。 同上		
4・27 ㊤願真学苑の親鸞聖人研究館落成式挙行。 同上		
4・一 ㊤金戒光明寺の再建始まる。 中外		
4・一 ㊤三十三間堂蓮華王院の千手観音像1001体を国宝に指定（昭11・7 同観音像の修理を200年計画で始める）。 官報、中外		
5・3 ㊤西本願寺仏書翻訳協議会、外人仏教宣布のため開催。 仏教年鑑 昭11		
5・7 ㊤洛東清水寺奥院牛尾山で古式により牛供養会を執行。 同上		

京	都	府	日	本
8・5 ㊤京都市観光課、寺院の行事奨励費と各所旧跡保存費の各補助金下付。 仏教年鑑 昭11			1・一	岡田茂吉、大日本観音会（のち世界救世教）を開教。
8・8 ㊤竹内日升、本妙法華宗管長に就任。 官報 2582			2・28	藤岡勝二没。
8・25 ㊤伊藤敬宗（鹿苑寺住職）没。 仏教年鑑 昭11			2・一	藤井行勝、インドのカルカッタに日本山妙法寺を創建。
8・29 ㊤久世郡宇治町の浄土宗西山光明寺派楊谷寺宇治教会所・右京区嵐山山田町の御獄教神徳教会所・左京区下鴨北園町の神道加茂教会、廃止状態のため設立認可取消し。 告示442号			3・15	天理教いちれつ会(財)設立。
9・1 ㊤南禅寺管長加藤至道、僧堂に入る。 仏教年鑑 昭11			4・1	『天台宗全書』（～昭11・12、21冊）。
9・8 ㊤伏見稲荷神社大鳥居竣工式挙行。 日出 9・3			4・一	『南伝大藏経』刊行開始（～昭16・2、65巻70冊）。
9・10 ㊤吉田教会で植村正久没後10年記念会を開催。東京大森教会の佐渡亘牧師（植村の女婿）も参加。 中外 9・6			4・一	東京築地本願寺、再建竣工。
10・7 ㊤西本願寺角坊別院親鸞銅像除幕式挙行。 仏教年鑑 昭11			4・一	岡野正道、霊友会から分かれ孝道教団を開教。
10・20 ㊤聖護院門跡に原敬讓を選任、12・10 聖護院に晋山。 仏教年鑑 昭12			5・25	大本の人類愛善会、タイ国本部設立。
11・6 ㊤豊国神社大鳥居完成、竣工奉告祭（靖国神社灯籠・満州新京神社鳥居と兄弟石で造られ、岡山県から搬入される。高さ2丈7尺5寸、柱の直径2尺9寸）。 日出 11・6			5・一	花山信勝、『聖徳太子法華経義疏』の研究で恩賜賞。
11・10 ㊤大谷大学で清沢満之追悼法要執行。 仏教年鑑 昭12			7・8	天理教満州伝道庁上棟式。
11・17 ㊤知恩院で印度独立運動犠牲志士慰霊祭を営む。 同上			7・15	宇井伯寿、『撰大乘論研究』刊行。
11・18 ㊤西本願寺婦人会連合本部、京都市内の職業婦人に正しい仏教の認識を与えるため仏教職業婦人倶楽部を設立。 仏教年鑑 昭11			7・25	佐々木鎮次、聖公会中部地方部主教に就任。
11・20 ㊤府、神道御獄教大岩教会所（伏見向ヶ原町）の設立の認可取消し。 告示624号			9・一	神戸に最初の回教寺院創建。
11・23 ㊤仏教専門学校図書館、故上村常次郎一家の寄付で竣工し、成徳常照館と名付け落成式挙行。 仏教年鑑 昭11			11・1	マン、聖公会九州地方部主教に就任。
11・25 ㊤黒谷金戒光明寺方丈上棟式を挙行。 仏教年鑑 昭12			12・10	司法省・内務省、大本の抹殺を決定。文部省、宗教団体法の制定を促進。
11・29 ㊤同志社創立60周年記念式挙行。同日、アーモスト館献堂式。 同志社90年小史			12・16	天理教本部、脱税容疑で搜索される。
12・8 ㊤大本弾圧（第2次大本事件）。出口王仁三郎ら幹部検挙され、京都市内の8警察署に留置される（12・17 亀岡天恩郷を閉鎖、12・18 綾部本部を閉鎖）。 大本事件史				
12・14 ㊤浄土宗管長に郁芳随円選出。 仏教年鑑 昭12				
12・17 ㊤府、文部省で定めた学校における宗教的情操の涵養に関し留意すべき要項を学校長あてに通牒。 府通牒 10学 3566号				
12・25 ㊤天理教明拝宣教所、綴喜郡田辺町に設立され、初代所長に宮森与三郎が就任。 天理教要覧				

京	都	府
1・18 ㊤深草派総本山誓願寺復興のため鈴木管長以下京都全市寒托鉢。 仏教年鑑 昭12	5・23 ㊤高倉会館で東本願寺保母講習会を開催。 仏教年鑑 昭12	
1・20 ㊤大本の全出版物発禁(2・5『人類愛善新聞』発刊)。 大本事件史	5・25 ㊤西本願寺で職業婦人教化運動拡大強化協議会を開催。 同上	
2・1 ㊤野村重臣の国体明徴に関する論文、『同志社論叢』に不掲載となる。これにより外部右翼団体・軍部の同志社に対する圧迫が激しくなり、同志社教学の根本問題にまで波及する。 同志社90年小史	5・27 ㊤洛北真如堂落慶法要執行。 同上	
2・7 ㊤西本願寺社会課で小学校教員を招き宗教と教育の懇談会を開催。 仏教年鑑 昭12	5・29 ㊤立命館大学で神道講座開設、小田垣教授が「古代実践倫理、白川流神道研究」を講義する。 中外 6・2	
2・9 ㊤東寺大師講京都本部の結団式執行。 同上	6・6 ㊤妙心寺三門上棟式挙行。 仏教年鑑 昭12	
2・10 ㊤本門宗管長竹部日正就任。 官報	6・29 ㊤西本願寺布教部が顕道会館で市電従業員に仏教修養講座開設。 同上	
2・25 ㊤全国特高課長会議、京都で開催。大本弾圧を全国に拡大し、改宗工作・結社禁止・建造物破却を指示する。 大本事件史	7・15 ㊤上島日珠、本妙法華宗管長に就任。 同上	
3・13 ㊤大本・昭和神聖会・人類愛善会・更始会・昭和青年会・昭和坤生会・明光社・大日本武道宣揚会の大本8団体が結社を禁止される。 同上	7・17 ㊤小早川随康、西山光明寺派管長に就任(9・14 晋山式を執行)。 同上	
3・18 ㊤鈴木知事、大本本部(綾部・亀岡・穴太)の建造物強制破却を命令(4・1 府下での押収物件を焼却、5・11 開祖奥都城と納骨堂を破却、5・18 本部建造物を破却。6・11 全国別院を破却)。 大本事件史、日出 5・12	7・18 ㊤大谷大学長更迭で住田智見、河野法雲前学長の後を襲ぐ(河野法雲大谷大学長が『真宗』(東本願寺派内機関紙)に掲載の論文「宗祖聖人の神祇観」のなかに、本山当局が真宗教義上不穏当な箇所を発見し、学長に善処を要望したため、学長は同志に同論文を取り消す旨掲載し、一切の公職を退き郷里岐阜へ隠棲)。 日出 11・22、仏教年鑑 昭12	
3・27 ㊤大徳寺本山記念館の上棟式を挙行(9・26 落成式)。 仏教年鑑 昭12	7・26 ㊤西山禅林寺派管長に淵江朴間を選任(9・10 晋山式を執行)。 仏教年鑑 昭12	
3・28 ㊤金閣寺村上順正新貫首晋山。 同上	7・一 ㊤知恩寺大方丈落慶式挙行。 中外	
3・一 ㊤新島パンフレット第1輯「同志社大学設立の旨意」が、同志社校友会から刊行される(4月同第2輯「新島先生航海日記抄」、8月同第3輯「新島先生詩歌抄」)。 同志社90年小史	7・一 ㊤京都蓮華王院(三十三間堂)千体観音像修理を始める(20年計画)。 同上	
4・6 ㊤第15回近畿2府4県神職連合会総会、京都市立二条高女講堂で開催、敬神思想振興を協議。 日出 4・7	8・26 ㊤鈴木知事、府下警察署長に大本の剿滅を指示。 大本事件史	
4・12 ㊤真宗大谷派の相続講50周年記念法要を開座。 仏教年鑑 昭12	9・8 ㊤金光教、壬生教会設立。金光教年表	
4・20 ㊤黒谷金戒光明寺大方丈落成。 同上	9・12 ㊤府立三中で乃木祭を開催、将軍の肖像・遺墨などを生徒に出品させ展示。これを機に記念日ごとに「偉人光賢祭」を行ない、日本精神の涵養に資することとする。 日出 9・10	
4・30 ㊤宮森与彦、天理教明拝宣教所の第2代所長に就任。 天理教要覧	9・30 ㊤中外日報社創立40周年記念大講演会を朝日会館で開催。 仏教年鑑 昭12	
5・6 ㊤遣仰院の釈迦・阿弥陀二如来像、国宝に指定。 文部省 告示226号	10・10 ㊤文部省精神科学振興のため、奨励金交付を発表(宮崎円遵(竜大講師)「中世に於ける仏教の庶民教化」、佐藤密雄(仏教専門学校教授)「明治維新に於ける浄土宗僧侶の勤王運動一特に京都寺院を中心として」)。 同上	
5・9 ㊤天台宗毘沙門堂門跡に水尾寂暁を選任。 仏教年鑑 昭12	10・10 ㊤京都仏眼教会と東京同会で視力保存デーとして無料診療を行なう。 同上	
5・10 ㊤高倉会館で大谷派伝道講究院を開設。 同上	10・18 ㊤生長の家、上京区の成逸小学校で講演会を開催。 中外 9・25	
5・14 ㊤東本願寺夾輔大谷瑩亮没(5・11 大谷瑩誠を後任に任命)。 同上	10・25 ㊤京都女子師範小学校、宗教教育に関する訓導協議会開催(～26日)。 日出 10・4	

京	都	府	日	本
10・一 ㊤京都市保安課が宗教関係不正講中の嚴重な内情調査と不正事実の発見にのりだす。 日出 10・21			1・26	天理教祖50年祭典、奈良県の天理教本部で執行。
11・5 ㊤竜谷大学図書館落成。 中外、仏教年鑑 昭13			2・1	曹洞宗、両山貫首と管長に対する御親臨・御観修・拜謁などの言葉を禁ずる。
11・6 ㊤平安教会創立60周年記念運動に、西尾幸太郎が応援、家庭訪問・礼拝・説教を行なう(～8日)。 平安基督教会略史			2・11	日本聖公会組織成立50年記念礼拝執行。
11・23 ㊤齊藤隆現、真言宗智積院管長に当選。12・5 就任、12・7 晋山。 官報、仏教年鑑 昭13			2・19	真理運動本部、丸ノ内で邪教批判の市民講座を開催。
11・26 ㊤右京区竜安寺住吉町の住吉神社に、大伴神社建設のための同志会を設置。日出 11・27			2・一	『仏書解説大辞典』完成。
11・29 ㊤京都市観光委員会で名勝風致保存並に行事奨励の各補助を決定。 仏教年鑑 昭13			2・一	宗教警察を特高課に移管し、取締りを強化(2・13 天理教、3・22 神政電神会弾圧)。
11・一 ㊤鞍馬寺本坊と霊宝殿建築に着手、同本坊を金剛寿命院白馬蓋寺と命名。 同上			3・2	宮川経輝(熊本バンド)没(80歳)。
11・一 ㊤聖公会京都復活教会の聖堂が上京区紫野西御所田町63に竣工。 日本聖公会100年史			4・4	マキム(聖公会主教)、ホノルルで没。
12・1 ㊤西大谷本願寺真所建築竣工(昭9 秋台風で半壊、昭10・1 に着手、鉄筋コンクリートを捨て包む純日本式の新様式建築、建坪288坪、総工費15万円)。 仏教年鑑 昭13			4・10	日満仏教協会、東京で発会式(会長大谷瑩潤・副会長大村桂蔵)。
12・6 ㊤大畑桑丘揮毫、東寺の釈迦・不動三尊図成る。 同上			4・11	大阪四天王寺施薬院落成。
12・13 ㊤山科の大石神社竣工(昭8・12・14 起工、工費6万円)。昭12・4・1 府社に昇格。 日出 4・2			4・一	大阪の神道各教派、インチキ宗教掃滅の「聖戦十字軍」をおこす。
12・19 ㊤鈴木松太郎、伏見稻荷神社宮司に就任(昭30・7・24 在職中に没)。 稲荷年表、稲荷詞官補任表			5・5	中山理賢没。
12・26 ㊤洛南基督教団、ルンペン・乞食など250人を集め、京都工科学校講堂でクリスマスを開く。27日には京都病院の癩患者仮収容所で行なう。 日出 12・26			5・25	時宗管長桑畑静善没。
12・一 ㊤年末までに大本信徒983人検挙、送局318・起訴61・起訴留保2・起訴猶予174・不起訴81、検東者3,000人をこす。 大本事件史			6・4	鈴木大拙、世界宗教会議のため渡欧。
			6・4	ライフスナイダー、聖公会北東京地方主教に就任。
			7・11	江部鴨村の『国訳大藏経』完成祝賀会を丸ノ内大阪ビルで開催。
			7・27	時宗管長に星徹定が就任。
			7・28	高楠順次郎ら、邪教撲滅運動を開始。
			7・31	望月信亨、『仏教大辞典』5巻を完成。
			9・22	村雲日浄尼、満州布教に出発。
			9・27	ひとのみち教団の初代教祖御木徳一引退。
			9・28	大阪府特高警察、ひとのみち教団教祖御木徳一を刑事事件で検挙し、本部を捜索。
			11・7	第7回全国仏教大会を岡山市公会堂で開催。
			11・30	宮内省、東京帝室博物館社寺宝物受託規定を公布(12・1 施行)。
			11・一	野生司香雲、インドのベナレス初転法輪寺の壁画を完成。
			12・一	妹尾義郎、『労働雑誌』名義人を理由に検挙、昭12・6 新興仏教青年同盟(昭5・4 結成)弾圧される。
			この年	▷ 下中弥三郎、1国1教主義のすめらみこと信仰を提唱。
				▷ 聖霊会(のち三界教団)開教。皇国大教会(のち神仙霊道教)開教。

京	都	府
1・9 ㊤真宗本願寺派門徒山口玄洞没(75歳、各地に仏堂を建立寄進したので有名)。(1) 仏教年鑑 昭13	7・5 ㊤国体明徴問題の騷擾におおられた同志社予科学生の一部が、チャペルを占拠し籠城。 同志社90年小史	
1・24 ㊤洛北日野誕生院の親鸞童形像除幕式挙行。 同上	7・29 ㊤蓮華王院築地塀・曼珠院本堂書院・仁和寺遼廓亭・仁和寺飛瀉亭を国宝に指定。 仏教年鑑 昭13	
1・27 ㊤府下の社寺建造物と宝物の修理とその保存施設に対して府会で助成費5,000円を決定。 同上	7・一 ㊤京都市、市内古社寺へ第2次補助金を交付(名勝風致保存費補助・行事奨励費補助)。 同上	
1・一 ㊤真宗「御文章」編纂者円如の真筆が山科音羽光照寺で発見される。 同上	7・一 ㊤嵯峨二尊院本堂修築・書院新築総工費35,000円を同院で決定(小倉山の名利を再現する目的で市観光課からも1,000円を醸出)。 同上	
2・27 ㊤日蓮宗布教院、下京区本圀寺境内に新築決定。 同上	7・一 ㊤天竜寺派等持院宝物10点が盗難にあり、府社寺課赤松囑託が被害状況を調査。 同上	
2・一 ㊤醍醐寺所蔵の宋版一切経の一部、東京の古書店で売品となる。 同上	7・一 ㊤上醍醐西国三十三番札所準提観音堂の西側で旧道修理中、鋏先にかかって白銅製経筒1口と銅鏡2面を発見(経筒は高さ約7寸・経約3寸、経筒の中に法華経6巻分納入)。 同上	
2・一 ㊤親鸞往生の地とつたえる洛西桂の角ノ坊別院本堂建立に着手。 同上	8・16 ㊤宇治万福寺本堂・禅堂等宇治火薬庫大爆発で損害(約3,000円)を蒙る。 同上	
2・一 ㊤竜谷大学図書館で徳川初期の鎌倉および学林の古地図類、貞永式目の古活字本など珍本多数が発見される。 同上	8・一 ㊤本派本願寺宗学院、『古写古版真宗聖教現存目録』を刊行。 同上	
2・一 ㊤同志社では国体明徴をスローガンとする内外の圧迫騷擾に対し「同志社教育綱領」を発表、同志社教育が教育勅語と背反しないことを明らかにする。 同志社90年小史	9・11 ㊤大谷大学学長に本多主馬が決定。 同上	
3・6 ㊤知恩院、3上人遠忌弁長700年、良忠650年、源智700年記念事業として『知恩院史』を完成。 仏教年鑑 昭13	9・27 ㊤天理教官津支教会、府内分教会所属から分離し、本部直属教会となり、分教会に昇格。 天理教要覧	
3・7 ㊤与謝郡溝尻長徳寺住職滋賀良清、同寺蔵の石幢(重要美術品指定内定)を右京区西ノ京小幡周蔵に売却(16日鈴木知事、寺有財産の無断処分として住職罷免方を岩井管長あて通告)。 仏教年鑑 昭13	9・一 ㊤東方文化学院京都研究所、『響堂山石窟』を刊行。 仏教年鑑 昭13	
3・19 ㊤古義真言宗大覚寺門跡に藤村密幢当選。 同上	9・一 ㊤嵯峨大覚寺門跡庫裡天井裏長持から古文書や古経類(後宇多天皇宸筆等)を多数発見(従来、国宝指定の後宇多天皇宸翰は御手印御遺告一巻・高雄曼陀羅御修覆記一通)。 同上	
4・一 ㊤御室仁和寺山門(国宝)解体修築に着手、第1回国庫補助費2,000円を交付される。 同上	10・6 ㊤臨済宗妙心寺派元管長神月徹宗没(59歳)。(2) 同上	
4・一 ㊤東福寺山内万寿寺(旧三聖寺)の愛染堂、室町時代応永年間の三聖寺古絵図を参考にして八角円堂の基壇に復元。 同上	10・11 ㊤西本願寺絵表所の徳力耕太郎没(65歳、仏画考証方面で著名)。 同上	
5・19 ㊤井口泰温、浄土宗西山深草派管長に就任、6・21 晋山。 官報 3110	11・7 ㊤京都日曜学校連盟・大谷大学日曜学校研究会・京都大谷派保育会連合会が報国児童大会開催。 同上	
5・一 ㊤伏見区御香宮門前町に日本聖公会の教会堂が竣工、松島篤が司祭に就任。 日本聖公会100年史	11・8 ㊤本門仏立講御牧精勤を総理とする内局成る。 同上	
6・3 ㊤大谷尊由、拓務大臣に就任(6・27 僧籍を離脱)。 仏教年鑑 昭13	11・25 ㊤赤沢日雄、本門法華宗管長に就任。 同上	
6・19 ㊤真言宗学生連盟、智山派宗務所で結成。 同上	11・30 ㊤大谷大学教授赤沼智善没、54歳。(3) 同上	
6・28 ㊤寛克彦(東大名誉教授)、同志社大学で日本精神講座を開講(～7・3)。日出 6・28	12・12 ㊤皇国主義の名のもとに、軍部・右翼団体による同志社弾圧策動激化し湯浅八郎、同志社総長を辞任(昭16・7 まで牧野虎次が総長事務取扱となる)。同志社90年小史、同志社教会90年小史	
6・一 ㊤峰尾宗悦、臨済宗妙心寺派管長に就任、7・1 晋山。 官報、仏教年鑑 昭13	12・16 ㊤郁芳随円、浄土宗管長に就任(昭10・12・14選出)。 官報 3288	

参	考	日	本
(1)	山口玄洞：広島県小道市生まれ。同市真宗本願寺派真泉寺門徒。紫野大徳寺内竜翔院、醍醐の伝法学院、高雄山神護寺、上賀茂門通寺観音堂、山科毘沙門堂門跡弁天堂同隠寮、山科勸修寺大悲閣、青蓮院門跡隠寮、愛宕念仏寺地蔵堂、古知谷阿弥陀寺、転法輪寺、百万遍知恩寺大方丈、大徳寺正受院など主に京都諸寺院の新築・再建・修築をはじめ庭園の造築・茶室の修築など無数にのほり、その寄付額は500万円を下らぬといわれる。	1・16	わが国唯一のキリスト教ボーイスカウトを、日本聖公会大阪教区内の中学生で結成。
(2)	神月徹宗：熊野郡久美谷村法林寺で神月文献につき得度、明37南禅寺派の同寺住職につき大7・9 妙心寺派に転派し八幡円福寺住職となる。大12・6 臨済宗大学長に抜擢され、昭3・4 同派管長に就任、昭7・3 辞任以後ひたすら円福寺で子弟教育および禅道の復興につとめる。	2・17	死のう団(日連会)、皇居・議事堂・警視庁などで切腹未遂。
(3)	赤沼智善：欧米留学8カ年、5カ国語に通じ、帰国後は大谷光暢真宗大谷派法主の学事用係をつとめる。大8大谷大学囑託教授、のち教授兼図書館長となったが、大谷大学騒動に直面し学問の自由を叫び辞職、昭9再び同大学に復帰する。	3・23	全日本真理運動青年会連盟を結成。
		3・30	天台宗真盛派管長山田智善没(76歳)。
		4・28	ひとのみち教団、不敬罪で解散。
		4・一	比叡山開創1150年記念法要を執行。
		5・22	海老名弾正(熊本バンド)没(82歳)。
		6・2	曹洞宗大本山総持寺貫首栗山泰音没(78歳)。
		7・7	蘆溝橋で日中両軍衝突(日中戦争おこる)。
		7・12	支那事変勃発につき、文部省、仏教各宗派管長に政府の方針を通牒。
		7・15	文部大臣、宗教・教化団体代表者に挙国一致運動を要望、8・17 宗教局長、国民精神総動員につき宗教家の奮起を促す。
		7・22	日本基督教連盟、国策への協力を表明。
		9・18	文部省、政府の国民精神総動員運動要綱(9・9 発表)の実施計画と趣旨の徹底を図る旨、各宗教派と教団へ通牒。
		11・27	天理教独立30周年記念祭、11・28 同立教100年祭。
		11・30	赤沼智善(大谷大学教授)没(54歳)。
		12・1	大倉精神文化研究所を設立。
		12・3	政池仁『基督教平和論』(再版)発禁。
		12・7	多田鼎(真宗大谷派僧侶)没。
		12・20	荻原雲来(浄土宗の梵文学者)没(69歳)。
		この年	
		▷	木下尚江没(69歳)。
		▷	牧口常三郎ら、東京で創価教育学会発会式を挙る。
		▷	村井屯二を中心に、日本聖書教会を創立(米国系アッセンブリーズ教団関係)。戦後イエスの御霊教会教団として再発足。

京 都 府	京 都 府
<p>1・12 ㊤仏教徒方面委員会主催の暁天座禅会を相国寺方丈で開催(～13日)。 日出 1・13</p> <p>1・13 ㊤東本願寺法主大谷光暢、出征将兵慰問・戦没者追悼のため支那・満洲へ出発(2・14天竜寺派管長関精拙、西山禅林寺派管長潤江朴聞・相国寺派管長代理金閣寺貫主村上慈海も北支那へ出発)。 日出 1・13、28、2・5、9</p> <p>1・25 ㊤鈴木松太郎(伏見稲荷神社 官司)、京都府神職会を代表し、京都衛戍病院・京都赤十字病院の戦傷将兵を慰問。 稲荷年表</p> <p>1・29 ㊤伏見稲荷神社が氏子区内深草学区内出征軍人家族に見舞金を贈呈。 同上</p> <p>1・31 ㊤京都仏教護国団の僧、恒例の寒中托鉢(～2・3)。浄財を陸軍病院に静養中の兵士の慰問会にあてる。 日出 2・1</p> <p>3・11 ㊤浄土宗総本山知恩院の北支方面開教使の第1陣として柴田立鳳ら6人、大同に別院建設のため出発。 日出 3・26</p> <p>4・10 ㊤金戒光明寺法主望月信亨、晋山式、引きつづき本殿再建起工式举行。 日出 4・11、12</p> <p>4・20 ㊤浄土宗総本山知恩院、支那事变戦死病没者英霊大追悼会。 日出 4・21</p> <p>4・26 ㊤日本聖公会第19総会、京都で開催(～29日)、「日本聖公会自給に関する件」可決。 日本聖公会100年史</p> <p>4・一 ㊤西本願寺、報国バッチ100万個売上げの収益金でシボレー病院車6台を購入し軍部に献納。 日出 4・15</p> <p>5・1 ㊤内務省、平安神宮に孝明天皇合祀の旨府知事あてに通知(2日祭神増加奉告祭、10日孝明天皇奉祀奉賛会発会式举行)。 日出 5・2、11</p> <p>5・31 ㊤法相宗管長に大西良慶の就職認可。 官報 6・6</p> <p>6・21 ㊤西本願寺、7・7の支那事变1周年記念日に全国末寺末門徒総動員で古銭・仏具金属等の廃品を献納するよう指令。7・7東本願寺も鉄約2千貫を献納。 日出 6・22、7・8</p> <p>6・28 ㊤東西両本願寺、両派末寺教会・門信徒に和協一心国策に順応するための両派の連携を論達。 日出 6・29</p> <p>7・7 ㊤日支事变1周年記念として、同志社大学が講演会を開催、第16師団館少将、「事变1周年を顧みて」と題して講演。この日の献金を国防献金とする。 中外 6・30</p> <p>7・27 ㊤天理教道友社主催の第1回信仰報國講習会、朝日会館で開催(～28日)、講師に第16師団の都丸中佐らを招き時局講座を開く。 中外 7・2</p>	<p>7・26 ㊤梨木神社で付近の小学生を中心とする小国民の敬神観念涵養と体位向上のため「朝もうで会」を実施、約100人が参加し神社参拝・宮城神宮遙拝・ラジオ体操・童話・唱歌などを行なう(～8・4)。 中外 7・23</p> <p>7・一 ㊤牧野虎次、同志社総長事務取扱に就任。 同志社90年小史、同志社教会90年小史</p> <p>8・1 ㊤出雲神社(南桑田郡千歳村)で氏子区内小学生700人の「朝もうで会」開催(～20日)、参拝・武運長久・ラジオ体操などを行なう。 中外 7・29</p> <p>8・10 ㊤生長の家、同志社栄光館で講演会を開催(講師、谷口雅春)。 中外 8・9</p> <p>8・上 ㊤瀬川八十雄、救世軍京都西陣小隊長に就任。 中外 8・11</p> <p>8・30 ㊤新義真言宗豊山派管長に南聖衛就職認可。 官報 9・1</p> <p>8・下 ㊤金光教京都報國一致会が金光教京都勤勞奉仕団を結成。9・3府下青谷村の傷痍軍人療養所の工事に奉仕。 中外 8・31</p> <p>8・一 ㊤2日から府下一円灯火準備管制が布かれ京都5山の送り火・宮津湾の灯籠流しなど盂蘭盆会の精霊送り火は一切禁止されたが、大文字は戦死病没者慰霊のためとくに許され28日点火。 日出 8・8、29</p> <p>9・6 ㊤天理教河原町大教会で防諜防空大講演会を開催、陸軍少将高橋省三郎「近代国防と防空問題について」、京都憲兵分隊長和田少佐「防諜について」と題して講演。 中外 8・28</p> <p>9・15 ㊤京都仏教護国団など、共催で毎月15日を感謝日を定め「各宗連合感謝日報国托鉢」をこの月から実施。 日出 9・16</p> <p>12・5 ㊤昭10・6の大出水で社殿の一部を流失した鞍馬の貴船神社、修復工事が終わり遷座祭を執行。 日出 11・21</p> <p>12・8 ㊤嵐山虚空蔵法輪寺、古針奉安塔(1対、高さ5尺)の落慶除幕式を举行(裁縫道奨励のため皇后・皇太后から古針を下賜され針供養修行を命じられたもの)。 日出 12・3、7</p>

参 考	日 本
	<p>1・一 矢内原忠雄、雑誌『道信』(昭7創刊)に代え『嘉信』を創刊。昭19・7・1警視庁検閲係長、昭19・12号で廃刊を命令。</p> <p>2・11 井戸清行、霊友会から分かれ思親会を開教。</p> <p>2・11 日本聖公会組織成立50年記念運動完了感謝礼拝。</p> <p>2・14 西尾幸太郎、伝道報國基督教大会で明治天皇御製を誤誦、大阪憲兵隊の取調べをうける。</p> <p>2・26 小崎弘道(熊本バンド)没(83歳)。</p> <p>3・5 庭野日敬・長沼妙伎ら霊友会から分かれ、大日本立正交成会を開教。</p> <p>3・30 文部省、神儒仏3教代表者を東京日本青年会館に招き、国民精神総動員・支那布教等を協議。</p> <p>4・1 回教園攷究所設立。</p> <p>4・18 天理教、教師検定制度更新。</p> <p>4・20 天理教婦人会・青年会・よのもと会、合同大講演会開催。</p> <p>4・26 日本聖公会第19総会、京都で開催、北東京地方部を北関東地方部と改称(～29日)。</p> <p>7・1 朝鮮のキリスト教長老協会派、神社参拝を承認。</p> <p>7・9 御木徳一(ひとのみち教団開祖)没(68歳)。</p> <p>8・18 天理教、従来の路傍講演を変更、全国一せいひのきしん実施(以後継続される)。</p> <p>8・一 高楠順次郎、ハワイ大学に出講。</p> <p>9・一 日蓮宗管長高佐日煌ら、皇道仏教行道会結成。</p> <p>9・一 常盤大定『支那仏教史跡踏査記』刊行。</p> <p>この年</p> <p>▷ 藁田胸喜・三井甲文ら「原理日本」運動、国粹的な右翼分子と結んで運動激化。</p> <p>▷ 天理教、各直轄教会に伝道班結成を打出す。</p>

京	都	府
2・4	④大西良慶、中支宗教大同連盟常任理事の推薦を辞退したため浄土宗福田闡正に決定。 中外 1・29、2・5	よび生活合理化の指針を決定するための総合研究所)。 中外 5・21
2・中	④府下各神社に奉納された出征軍人の幟が傷痍軍人の授産事業用として、八瀬の愛国寮に無料で払い下げることになる。 中外 2・26	5・1 ④京都市衛生課、市内の花山(東山)・蓮華谷(北山)・帰命院(伏見)の3火葬所の骨灰処分を仏教連合会京都支部「連友社」に委託(市内1カ年屍体数約17,000人)。 中外 5・19
2・一	④日本精神発揚週間実施、府下の各神社が、これに参加。8日、八坂神社では小学校長約40人を招き時局認識座談会を開催。11日、松尾神社では氏子学区青年団員による撰末社巡拝駅伝競争など。 中外 2・8	5・一 ④京都仏教護国団が経営する伏見醍醐の京都養老院、財団法人を申請。 中外 5・17
2・一	④久松真一の指導で京大学生課主催の真人会の座禅修行本格化。 中外 2・14	6・8 ④洛東山科毘沙門堂門跡杉谷義良辞任、70歳。 中外 6・9
3・6	④浄土宗、時局活動費の補充に宗費増額断行(総額12,000円余)。 中外 3・5	6・8 ④賀茂御祖神社(下鴨神社)の神饌田(愛宕郡岩倉村大字花園入亀山)が540年ぶりに復興、田植式を行なう。 日出 6・7
3・22	④西本願寺の翻訳課主任宇津木二秀ら『和英標準仏教讃歌集』を著わす。 中外 3・17	6・23 ④西本願寺、京都幼稚園の保母を対象に融和問題研究会を開催。 中外 6・21
3・24	④市民基督教講演会、百万辺のフェローシップハウスで開催(～25日)、袖山信一郎が「躍進日本に対する基督教の大使命」と題して講演。 同上	7・16 ④鈴木ピアトリス女史没(鈴木大拙夫人、大谷大学教授、仏教学研究家)。京都 7・18
3・一	④宗教団体法案成立で相国寺が社会公益事業に貸与している1万余坪を無償払下げとなる。 中外 3・25、8・22	7・17 ④西本願寺安居別科講習会を一般社会に公開(～23日)。 中外 5・25
3・一	④西本願寺、国家総動員の順応態勢として組織する本派文書連盟に全国約70社が加盟し京都在住人を実行委員として在洛委員が毎月の標題を決定、全国一せいに論陣を張る。 中外 3・23	7・20 ④真宗大谷派教会連盟、京都中心に結成(この日上京区紫野紫竹説教場で京阪神教会代表者総会開催。大谷派の教会管理者の僧籍獲得運動が翌年4月の宗制寺法実施をひかえ盛んとなる)。 中外 7・22
4・1	④各府県の官祭招魂社が護国神社と改称。これにともない京都の東福寺・大雲院・泉涌寺の官祭招魂社の英霊(明7の佐賀役以来)は東山靈山に合祀され、護国神社と改称。北桑田郡山国村薬師山の官祭招魂社も護国神社と改称。 日出 3・17、官報	7・21 ④神社人と仏教徒がお互いに神道と仏教の認識を得るため東本願寺で神仏会談を開催。 中外 7・23
4・9	④京都感化保護院創立50年記念式と建築落成式を挙(総工費12,000円)。 中外 4・11	8・1 ④大徳寺僧堂を開放し一般大衆に雲水生活を体験させる。 中外 8・2
4・23	④国際反共連盟京都支部結成。 日出 4・25	8・1 ④大谷尊由没(54歳)。 中外 8・3
4・一	④伏見の大谷派青年僧侶と信徒が真宗精神の実践により会員相互の向上をはかるため西方寺で伏見真宗青年会を結成。 中外 4・2	8・21 ④西本願寺法主大谷光照、7月に応召したため法主の父大谷光明を法主代務者に任命認可。 中外 8・23
5・1	④豊国神社の皇軍将士武運長久祈願祭に、京都市内ではじめて半島国防婦人会員約30人が参列、代表が玉串を捧げる。 中外 5・3	8・29 ④上醍醐寺客殿・書院・準胝観音堂・清滝権現本殿・経蔵など焼失。 中外 8・30、31
5・11	④西本願寺社会事業協会、右京区山ノ内御堂町に角ノ坊母子寮と角ノ坊保育園を開設。 中外 5・9、12、社会時報 9・6、9	8・下 ④京都生長の家教化部が本部直属となる。谷口隆之助が部長に就任。 中外 8・22
5・一	④東西両本願寺、刑務協会研究所(刑務教師練習所)を開設。 中外 5・8	9・4 ④府、宗教団体法実施に備え宗教結社と仏堂に関する調査を実施するよう府管下26警察署長に通達。 中外 9・5
5・一	④京大医学部戸田正三ら、京大内に興亜民族生活科学研究所を興亜院の援助で設置(東洋民族間の衣食住嗜好風俗習慣などの研究調査および生活合理化の指針を決定するための総合研究所)。 光華学園要覽 昭40	9・7 ④浄土宗、興亜時局に対応する宗門教育機関樹立に関する教諭を京都仏教専門学校で発する。 中外 8・26

京	都	府	日	本
9・26	④婦人法話会(真宗大谷派)50年史編纂を決定。昭15・1・11同史編纂会議を開く(昭16・11刊行)。 中外 9・28	9・一 ④宝積寺蔵の木造閻魔王座像が国宝に指定される。 官報	1・5	郡徳隣(熊本バンド)没(80歳)。
9・一	④天竜寺庭園(国宝)修築に着手、文部省久恒秀治技師監督。 中外 9・14	9・一 ④天竜寺庭園(国宝)修築に着手、文部省久恒秀治技師監督。 中外 9・14	1・18	内務省、1市町村に1基の忠霊塔建設許可。7・7 大日本忠霊顕彰会発会。
10・3	④松井日景、本妙法華宗管長に就任。 官報 3827	10・3 ④松井日景、本妙法華宗管長に就任。 官報 3827	2・13	岡田松生(熊本バンド)没。
10・4	④山田玉田、黄檗宗管長に就任。 官報 3828	10・4 ④山田玉田、黄檗宗管長に就任。 官報 3828	3・15	各地の招魂社を護国神社と改称し(4・1施行)、同時に神饌幣帛料供進の制を定める。
10・5	④大阪税務所監督局、寺院境内地法案に最も関連する寺院として妙法院・高台寺・知恩院の3カ寺を選び調査を実施。中外 9・19、10・6	10・5 ④大谷大学300年記念式典挙行、このとき『大谷大学300年史』を完成。 中外 9・10	3・18	天理教よのもと会を、天理教教師会と改称。
10・5	④大谷大学300年記念式典挙行、このとき『大谷大学300年史』を完成。 中外 9・10	10・5 ④大谷大学300年記念式典挙行、このとき『大谷大学300年史』を完成。 中外 9・10	4・8	宗教団体法公布(昭15・4・1施行)。
10・6	④組台教会第55回総会、京都市で開催(～9日)。 同志社教会90年小史	10・6 ④組台教会第55回総会、京都市で開催(～9日)。 同志社教会90年小史	同日	寺院などに無償で貸付する国有財産の処分に関する法律公布。
10・6	④大谷大学可西大秀、「蓮如上人所破の秘事思想についての一考察」(大谷学報20:3)を発表。真宗高田派の高田専修学院校長生桑完明らと高田派中興真慧をめぐって論争。 中外 昭15・1・14、2・15	10・6 ④大谷大学可西大秀、「蓮如上人所破の秘事思想についての一考察」(大谷学報20:3)を発表。真宗高田派の高田専修学院校長生桑完明らと高田派中興真慧をめぐって論争。 中外 昭15・1・14、2・15	5・21	徳光教祖20年記念大祭、大阪の神道徳光教教会本部で執行。
10・19	④高岡隆心(古義真言宗管長)没(77歳)。 中外 10・25	10・19 ④高岡隆心(古義真言宗管長)没(77歳)。 中外 10・25	6・10	矢吹慶輝没。
10・23	④黒谷金戒光明寺本堂立柱式を挙。中外 10・24	10・23 ④黒谷金戒光明寺本堂立柱式を挙。 中外 10・24	6・19	天理教教師会第1回修行会中庭道場で開催。
10・26	④華頂興学済世会結成(蒙古・満州・ビルマなど仏教国との親善と仏教留学生の招致が目的)。 中外 10・27	10・26 ④華頂興学済世会結成(蒙古・満州・ビルマなど仏教国との親善と仏教留学生の招致が目的)。 中外 10・27	6・27	小野玄妙没。
10・27	④三千院門跡堀恵慶没(64歳)。 中外 10・28	10・27 ④三千院門跡堀恵慶没(64歳)。 中外 10・28	7・一	喜田貞吉没。
11・12	④東福寺庭園、造園専門家重森三玲の構想で完成し公開(～13日)。 中外 11・10	11・12 ④東福寺庭園、造園専門家重森三玲の構想で完成し公開(～13日)。 中外 11・10	7・一	ゴッタート没。
11・15	④金光教平安教会で教祖婦幽50年祭・立教奉讃祭。 中外 11・8	11・15 ④金光教平安教会で教祖婦幽50年祭・立教奉讃祭。 中外 11・8	9・12	聖公会神学校新校長に須貝止師就任。
11・19	④御室仁和寺・東寺・紫野大徳寺・醍醐三寶院などの障壁画を大阪高島屋における堂本印象作の宗教美術と寺院襖絵展に出品(～22日)。 中外 11・16	11・19 ④御室仁和寺・東寺・紫野大徳寺・醍醐三寶院などの障壁画を大阪高島屋における堂本印象作の宗教美術と寺院襖絵展に出品(～22日)。 中外 11・16	9・24	中田重治(東洋宣教会創立者)没(70歳)。
11・26	④西本願寺の保母養成所校舎落成(昭5・春、東山3校に設立されて以来10年間に卒業生500人を数えて好成績を示したため3校から独立した校舎を新築したもの)。 中外 11・27	11・26 ④西本願寺の保母養成所校舎落成(昭5・春、東山3校に設立されて以来10年間に卒業生500人を数えて好成績を示したため3校から独立した校舎を新築したもの)。 中外 11・27	11・3	キリスト教新・旧各派40団体、連合信徒大会を青山学院で開催(1万人参加、明16以来の新・旧合同大会)。
11・27	④柴田隆明(醍醐融雲寺住職)、西山禪林寺派第81世管長に選任、12・13認可、昭15・3・7晋山。 中外 11・28、官報 3886	11・27 ④柴田隆明(醍醐融雲寺住職)、西山禪林寺派第81世管長に選任、12・13認可、昭15・3・7晋山。 中外 11・28、官報 3886	11・17	田中智学没(79歳)。
11・一	④安養寺と知恩院の寺有地争いおこる。更に円山公園地問題で大蔵省に陳情。 中外 11・7、8	11・一 ④安養寺と知恩院の寺有地争いおこる。更に円山公園地問題で大蔵省に陳情。 中外 11・7、8	12・23	宗教団体法施行令公布。
12・30	④能受日章、本門法華宗管長に就任。 官報 3873	12・30 ④能受日章、本門法華宗管長に就任。 官報 3873	この年	▷ 天理ほんみち解散、教団幹部は敗戦まで投獄される。
12・一	④同志社大学生の無宗教者56%に達す。 日出 12・24	12・一 ④同志社大学生の無宗教者56%に達す。 日出 12・24		

京	都	府
1・8 ㊤京都仏教護国団大西良慶ら、東京帝国大学津田左右吉の神代否定説を糾弾する声明を決議。 中外 1・10、1・24	6・28 ㊤大谷大学教授金子大栄、真宗大谷派の僧籍に復帰(昭4・2、著書『浄土の観念』で異安心問題を起し、僧籍を返上していた)。 中外 6・30	
1・18 ㊤同志社新島校祖50年記念運動実施(～27日)、学内における入信者500人を越す。20日、YMCA会館で記念講演会、27日同志社栄光館で新島襄永眠50周年記念式。 中外 1・26、同志社90年小史	7・20 ㊤京都感化保護院(もと六角獄舎)に六角獄舎で獄死した勤王の志士100余人のために「殉難勤王志士忠霊塔」を建立、除幕式を行なう。 日出 7・21	
1・22 ㊤加藤諦見、古義真言宗管長に就任。 官報 3912	7・22 ㊤太田常正、臨濟宗大徳寺派管長に就任。 文部省 告示520号	
2・6 ㊤醍醐寺仮本堂・書院・庫裡再建着工。 中外 2・9	8・1 ㊤今出川堀川東の白峰宮が白峰神宮と改称され官幣大社に昇格。 日出 8・2	
2・11 ㊤紀元2600年祭執行(京都護国神社では桜の植樹、伏見稲荷神社には奉祝団体が多数参拝)。 日出 2・11、稲荷神社日誌	8・1 ㊤大日本生産党京都支部が救世軍京都小隊に即時解散を勧告、京都市内数10カ所に「敵性英国の手先、スパイの温床、救世軍を葬れ」の立看板を立てる。 中外 8・8	
2・29 ㊤大本事件第1審判決、治安維持法違反・不敬罪・新聞紙法・出版法違反有罪、即日控訴。 日出 3・1、大本事件史	8・10 ㊤大日本青年党京都府連合会が同志社に対し教育原理の皇道の改革・救世軍京都小隊に対し解散の要請書を手交することを決定。 日出 8・11	
2・一 ㊤洛東鹿ヶ谷法然院から『久米歌註』1巻・『日本書紀私抄』3巻・『拾遺抄』1巻など発見。 中外 2・17	8・17 ㊤千本閻魔堂引接寺住職菊入頼如、市の西陣授産分場設置計画に協力し七・七禁止令で同寺を西陣の離失業者救済のため開設。ついで西陣の日蓮宗大本山妙顕寺も市に書院・七面堂・妙見堂の開放を申し出る。 中外 8・18、23	
3・16 ㊤真言宗醍醐派三寶院塔中五大堂落成。 中外 3・19	8・27 ㊤下嵯峨柳田町の元天竜寺慈濟院墓地から石棺を発見(和田軍一・西田直二郎・赤松俊秀ら立ち会いで発掘)。 中外 8・29	
3・一 ㊤智積院で紀元2600年奉祝法要を修す。 中央仏教	8・一 ㊤京都仏眼協会(真宗大谷派)が竹村清治郎から1万円を寄付され、財団法人設立を申請(同会は眼科診察及び失明者の職業保導に尽し、不遇者を救済するために設立したもの)。 中外 8・9	
4・1 ㊤東山区林下町の良正院住職細井照道が保護少年を収容・補導するため富小路五条下ルに大照学園を設立(昭24・4 聾児を収容し、昭37・4 精神薄弱児施設となる)。 仏鑑 昭44	9・1 ㊤百万遍知恩寺に保育園を開設。 中外 8・2	
4・一 ㊤桜井景雄、『南禅寺史』を刊行。	9・22 ㊤星野三雄、11代同志社教会牧師に就任。 同志社教会90年小史	
4・一 ㊤吉田神社が紀元2600年を記念して『神道大意』を刊行。 中外 4・12	10・10 ㊤全国社会事業大会で、社会事業功労者に厚生大臣賞を授与。府内宗教関係者は清滝智竜(太秦広隆寺前住職・済世病院長兼主事)・桜井清(同院事務長)・園部マキ(基督教信愛保育園長兼保母)・藤田良吉(白川学園長)ら。 中外 10・3	
5・上 ㊤西本願寺、女子融和事業指導者訓練所を開設。 中外 4・17	10・12 ㊤天台宗山門(叡山)・寺門(三井寺)・盛門(西教寺)の3派合同に関する協約を結ぶ。 中外 10・20	
5・16 ㊤一灯園の調査研究会開催。 中外 5・18	10・19 ㊤京都で初の日本宗教学大会、竜谷大学を会場に開催。 中外 10・2	
5・19 ㊤組合洛陽教会の献堂50年式執行。 中外 5・12	10・20 ㊤孝明天皇の御霊代、平安神宮西本殿に鎮座、鎮座祭盛大に行なわれる。 日出 10・20	
5・一 ㊤醍醐寺五大堂落成。 中外		
5・一 ㊤円山公園地にある時宗長楽寺・安養寺の境内地問題が難航。 中外 5・28		
6・11 ㊤真宗仏光寺派宗学研究会開催、前年の宗制改正による最初の試みて、同派の宗学研究発表を学的方法で実施(このとき仏光寺派祖真仏上人の文書が700年ぶりに公開された)。 中外 6・20		
6・18 ㊤白峰宮の齋館の上棟祭執行。 中外 6・13		
6・20 ㊤日本仏教史映画「大乘の国」、祇園弥栄会館で上映。 中外 5・25		

京	都	府	日	本
10・23 ㊤戦時物資活用協会、寺院所蔵金属品の献納につき京都各本山と懇談。什宝帳記載の金属品献納を許可することになる。 中外 10・24			1・10 宗教団体法施行規則公布。	
10・26 ㊤一乗寺町の曼珠院門跡久田全珙、梅谷孝永の辞任にともない天台座主と延暦寺住職に就任することを発表(大13・5 曼珠院門跡に就任)。 中外 10・29			2・9 寺院などの国有境内地取扱規程公布。	
10・27 ㊤西山光明寺派臨時宗会で新宗制と西山三派合同の建議案を可決。 中外 11・2			2・10 津田左右吉『古事記及日本書紀の研究』、2・12『神代史の研究』・『上代日本の社会及思想』・『日本上代史研究』発禁。3・8 出版法違反で著者と出版者岩波茂雄起訴。	
10・27 ㊤新島襄永眠50年記念遺品展、京都大丸で開催(～11・1)。11・29、同志社校友会が『新島先生記念集』を刊行。 同志社90年小史			3・16 宗教団体登記令公布。同日、公衆礼拝用建物および敷地登記令公布。	
11・1 ㊤臨濟宗合同実行委員会、南禅寺で開催。 中外 10・30			3・28 神道(本局)を神道大教と改める。	
11・3 ㊤京都仏青連盟と京都各宗学校連合会主催の紀元2600年奉祝会を挙行。 中外 11・5			3・30 宗教制度調査会官制廃止。	
11・20 ㊤西本願寺の思想保護事業である白光会館が上京区吉田牛之宮町に落成。 中外 11・21			4・12 国庫より供進すべき護国神社祭司料および官修墳墓修繕料定額を定める。	
11・27 ㊤南禅寺における臨濟宗南禅寺派定期宗会と同宗南禅寺派新宗制と臨濟宗各派合同案を可決。 中外 11・28、30、12・1			4・22 天理教道友社、創立50年記念式。	
11・一 ㊤真言宗学生連盟理事会、仏教総合大学を究極の目的とする真言宗総合大学設立を決議。 中外 11・21			4・24 神宮皇学館大学官制公布。	
12・2 ㊤天台宗の新宗制(宗派を法人とする、世襲制を許可するなどの特別規定)と同宗3派合同方針案を臨時宗会に提出。 中外 11・28			4・25 天理時報社創立。社長・岡島藤人、専務・松井忠義。	
12・8 ㊤臨濟宗妙心寺派新宗制案、同派宗会で可決。 中外 12・10			4・一 天理教、集団所を布教所と改称。	
12・9 ㊤真宗大谷派宗議会で、宗制の一元化貫徹を決議。 中外 12・11			5・上 賀川豊彦ら、東京角筈の日本基督教会に「伝道学社」開校、教会義勇軍の養成と開拓伝道者を養成。	
12・10 ㊤洛東建仁寺大方丈落成(11日紀元2600年法要、12日 栄西禅師生誕800年記念法要を同寺で執行)。 京都 12・11			7・31 東京憲兵隊、救世軍植村司令官ら7人をスパイ容疑で取調べる。	
12・10 ㊤生長の家京都教化部、神聖観実習・光明講座を開講。 中外 12・6			7・31 救世軍日本地方軍団司令官植村益蔵ら幹部、防諜上の容疑で東京憲兵隊に検挙される。	
12・11 ㊤真宗大谷派全国青年僧、京都で宗門新体制確立同盟を結成。 中外 12・11			8・10 日本聖公会教務員会議で自治自給即時断行を決議。	
12・22 ㊤寺本婉雅没、69歳(東本願寺擬講、大谷大学教授、西蔵学の世界的権威者)。 中外 12・22			8・25 賀川豊彦、渋谷憲兵隊に反戦的平和論で拘引される。	
12・22 ㊤真言宗醍醐派宗会、合同に絶対反対を唱える。 中外 12・24			9・23 救世軍、救世団と改称。	
12・27 ㊤仁和寺門跡に岡本慈航を再任。 中外 1・1			9・30 鈴木大拙、『禅と日本文化』(北川桃雄訳)刊行。	
12・28 ㊤禅林寺宗会で浄土宗西山3派の合同を可決。他の深草・光明寺の両派とも既に同問題を可決しているため、その実現が決定。 中外 1・1			9・一 文部省、神・仏・基の代表を招集し、各教宗派の合同を希望。	
12・一 ㊤堂本印象、西天王寺五重塔の壁画図録刊行に着手。 中外 12・27			11・9 神祇院官制公布(神社局廃止)。	
12・一 ㊤臨濟宗12派が合同の賛成を決議、鎌倉の臨濟宗2派が参加を拒否。 中外 12・21			11・25 上智大学編纂『カトリック大辞典』(5巻、三木清・戸坂潤・古在再開、～昭35・8、富山房)。	
			11・一 岡田茂吉の信仰療術禁止。	
			この年	
			▷ 山室軍平(救世軍司令官)没(69歳)。	
			▷ 日本バプテスト西部組合、東部組合に合同し日本バプテスト連盟を結成。	
			▷ 組合・長老・メソジストなど新教主要各派の主流が合同し、日本基督教団を結成(新教を代表する)。	
			▷ 佐原忠次郎、妙道会を開教。	

京	都	府
2・13 ㊟聖公会京都地方部の外人教師ニコルス師・チャップマン師帰米。 中外 1・25		5・19 ㊟東本願寺興亜局、軍病院白衣の勇士慰安会で宗教劇「蓮如と弥七」を同寺議事堂で上演。原作は興亜局賛事増田円応。 中外 5・24
2・16 ㊟本門宗、日蓮宗および顕本法華宗と合同することに決定。 中外 2・18		5・24 ㊟西本願寺、東京に日本教学研究所を開設。 同上
3・11 ㊟本門仏立教会本部有清寺、本門法華宗の独立本山を公称。 中外 3・13		5・27 ㊟天理教府内分教会が大教会に昇格。 天理教要覽
3・11 ㊟法華宗・本門法華宗・本妙法華宗が合同し、法華宗と改称。管長は本能寺貫首岡本日盛(元本門法華宗管長)に決定。 中外 3・12、13		6・3 ㊟挙宗体制を強化する目的で浄土宗清和会を解消し、同宗報国会を設立。 中外 6・3
3・19 ㊟京都基督伝道館(キリスト伝道・共同復興・ペンテコステ・イエスキリストが参加)が室町中長者町の同会館で創設者拓植氏15周年記念全国各伝道館総動員聖会を開催(～23日)。 中外 3・9		6・24 ㊟同志社教会が「日本基督教団」設立のための緊急総会(東京富士見町教会)に牧野・大塚・南石の代議員を派遣。同志社教会90年小史
3・24 ㊟由比日光、本門宗管長に就任。 文部省告示 343号		6・25 ㊟府社寺課の赤松俊秀を主任とする囑託3人が、市内各宗派寺院の寺宝調査に着手。 中外 昭 17・1・15
3・25 ㊟臨済宗16派合同に各派管長重役が調印。臨済宗京都6本山は天竜・南禅・相国・東福・建仁・大徳の各寺派。 中外 3・26		6・28 ㊟天台宗毘沙門堂門跡に中山玄秀を選任、7・2 仮入山。 中外 6・29
3・25 ㊟浄土宗西山派初代管長は柴田禅林寺管長に決定、宗務所は深草派本山誓願寺。 中外 3・27		6・30 ㊟法華宗京都5本山、本妙法華宗総本山本隆寺山内の宗学林校舎を社会事業会館にあてる(同学林は宗派合同で尼ヶ崎の法華宗の学林へ合併)。その事業は主に少年保護事業。 中外 7・4
3・25 ㊟清滝智竜没、72歳(太秦広隆寺前住職・濟世病院長)。 同上		7・2 ㊟天理教山陰分教会が奈良県大和郡山市の郡山大教会の所属から分離し本部直属教会となり、大教会に昇格。7・7 山田一が同教会の第7代教会長に就任。 天理教要覽
3・27 ㊟真宗大谷派宗制案可決。 中外 3・29		7・11 ㊟京都児童文化協会設立。真宗大谷派日曜学校連盟・浄土宗児童協会・児童文化キリスト教連盟など参加。 中外 7・13
3・29 ㊟文部省、浄土宗・律宗・法華宗の各宗宗制を認可。 中外 4・1		7・13 ㊟京都法華宗5本山、僧侶の教化団体として京都法華会を結成。 中外 7・4
3・31 ㊟真言宗新古各派合同の最終的協議会を智積院で開催し合同宗制を可決、初代管長に古義真言宗管長藤村密幢を推挙。 中外 4・2		7・16 ㊟西山専門学校教授を中心とする当麻曼荼羅研究会を西山派本山光明寺の援助で設立(西山証空上人真蹟といわれる当麻寺の念仏供頌文に西山学界が注目し始めたことによる。この日、府下山崎の念仏寺仏像胎内から発見された古文書(証空連名)を同会が調査)。 中外 7・25、31、8・27
3・31 ㊟金光教の高野教会設立。 金光教年表		7・18 ㊟聖公会聖三一教会の佐々木二郎牧師が京都教区の初代邦人監督に就任。 中外 7・24、月本聖公会100年史
3・一 ㊟クラブ・ヒバート・カーブ・トーマスの外人教師、同志社をひきあげ帰米。 同志社90年小史		7・22 ㊟池坊・嵯峨・御室の華道3流派、皇国華道協会を結成。 中外 7・25
3・一 ㊟日本仏教史学会設立(日本仏教に関する諸般の史的研究機関、毎年4回雑誌『日本仏教史学』を発行し毎年1回京都または東京で研究発表会を開く。事務所を京都平楽寺書房内に設置)。 中外 3・23		7・30 ㊟京都仏教護国団経営京都養老院、京都同和園(財)と改称認可。 中外 4・25、8・5、28
4・7 ㊟浄土宗西山光明寺派・同禅林寺派・同深草派の西山3派合同宗制を文部省が認可。 中外 4・9		7・一 ㊟浄福寺絹本著色の十王像が国宝に指定される。 官報
4・22 ㊟深谷かのが天理教河原町大教会第5代会長に就任。 天理教要覽、中外 4・23		7・一 ㊟牧野虎次、第11代同志社総長に就任
4・一 ㊟東寺金堂の修理落慶と嵯峨天皇1100年忌法要を修行。 中外		
5・18 ㊟近江兄弟社の一柳米来留が上賀茂北山町のメソジスト京南教会で初講演。 中外 5・14		

京	都	府	日	本
(昭22・3 辞任)。		同志社90年小史		1・13 鷲尾順敬(真宗大谷派学僧)没(74歳)。
8・30 ㊟真宗大谷派教育財団理事会で大谷大				1・16 基督教連合東京時局奉仕会と東京基督教役者会、約200人の基督教奉仕隊を宮城外苑の整備工事におくる。
		中外 8・30、31		2・1 満州基督教開拓村建設先遣隊出発。
8・一 ㊟府が府下4市17郡別に国有境内地を				3・上 仏教済世軍東京本部解散。
有する寺院数と境内地の調査を完了。		中外 8・15		3・24 仏教連合会を改組し、大日本仏教会(財)を結成。
				3・31 天理教、新教規を制定。
8・一 ㊟日本仏教史学会、『日本仏教史学』				3・31 仏教各宗派が合同し、13宗56派を13宗28派に統合。真宗10派はこの合同に強く反対して従来のみとなる。
を創刊、日下無倫・禿氏祐祥・石田茂作・花山信		中外 8・20		3・一 天理教一宇会設立(婦人会・青年会・教師会合流)。
勝・木村武夫ら研究論文を発表。				4・5 小崎弘道・賀川豊彦らキリスト教界代表、平和使節として渡米。
9・13 ㊟西本願寺、臨戦体制布教研究会開催		中外 9・13		4・22 日本聖公会第20総会、東京で開催、教団規則承認8教区設立決定(～24日)。
(～19日)。				5・3 日本天主教教団(カトリック)設立認可。
9・17 ㊟白峰準備委員会解散し白峰神宮御造		日出 9・18		6・6 小石川伝通院で文部省翼賛会後援の第1回宗教報恩大会を開催。
営奉賛会を設立。				6・24 日本基督教団(プロテスタント)創立総会(11・24設立認可)。
9・20 ㊟京都府神道各教連合会の幹部教師30		中外 9・12		8・2 大政翼賛会、みそぎ鎮成講習会開催。
人が伏見稻荷神社で観講習会を開催(～22日)。				10・一 天理教、外地人・外国人の授訓規定、ひのきしん隊結成要綱発表。
		中外 9・25		12・1 賀川豊彦らキリスト教徒有志、ワシントンの教会と呼応して日米会談の妥結と平和を願う祈禱会を東京で開催。
9・下 ㊟安田忠吉、新設された日本基督教団				12・3 近角常観(真宗大谷派僧侶)没(72歳)。
京都支教区長に就任。		中外 10・21		12・8 太平洋戦争はじまる(大日本仏教会、仏教徒銃後奉公会結成。宗教報国を唱え戦時体制をととのえる)。
10・20 ㊟東本願寺、戦時体制機構を確立する				12・26 コンウォール=リー女史(日本聖公会)没。
旨発表。		中外 10・24		12・一 天理教、全教区に緊急事態対策指示される。
10・22 ㊟京都護国神社の参集所竣工。				この年
		中外 11・15		▷ 太平洋戦争開始後、朝鮮人キリスト教徒の神社参拝に反対するものなど2,000余人を投獄。
11・2 ㊟真宗大谷派の光華高等女学校校舎落				▷ 宗教団体法施行で、教派神道13教派、仏教28宗派、キリスト教2教団に統合。
成。		中外 10・31		▷ セブンスデー=アドベンチスト日本連合伝道部会、第7日基再臨教団と改称(昭19治安維持法にふれ解散、昭20再開)。
11・4 ㊟東本願寺教学部の真宗同学会創立総		中外 11・16		▷ 修養団平和会、修養団捧誠会と改称。
会(5日発会式)。				
11・16 ㊟真言宗京都府報国団結成。		同上		
11・16 ㊟真宗本願寺派報国規程発表。 同上				
11・16 ㊟稲荷大神信仰を基調とする敬神運動		稲荷年表		
促進に関する集会、昭和維新会と改称。				
11・19 ㊟真宗大谷派寺族婦人中央修練道場を		中外 11・19		
東本願寺議事堂に開設。				
11・下 ㊟『真宗大谷派婦人法話会50年史要』		中外 11・25		
出版。				
11・一 ㊟高山寺蔵の木造明恵上人座像が国宝		官報		
に指定される。				
12・17 ㊟京都仏教文化協会を結成。		中外 12・18		
この年				
▷ ㊟同志社教会、大学の配属将校らの指令により、チャペル壇上正面の新島襄の肖像をおろし、日の丸の旗を掲げ、礼拝式に宮城の遙拝を強制される。		同志社教会90年小史		

京	都	府
1・22 ㊤大政翼賛会京都市支部、宗教団体統合の一環として市内キリスト教団代表を招き、市内全教団の統合を要望。 日出 1・23		6・1 ㊤神学校の統合が計画され、関西では同志社と関西学院の神学科が合併し、神戸と大阪に聖書学院・女子神学校を設置する案に同志社は賛意を示さず。 京都 5・5
1・一 ㊤金属特別回収令による供出に府下諸神社も協力（平安神宮では鉄11,097 kg・銅552 kgを供出）。 日出 1・11		6・1 ㊤同志社校友会が『新島先生書簡集』を刊行。 同志社90年小史
1・一 ㊤京都仏教文化協会、大政翼賛会京都市支部の外郭団体として規約を制定。 中外 1・17		6・14 ㊤京都キリスト教の報国会が同志社栄光館で結成式。日本基督教団京都市教区・日本天主教教団京都教区・京都基督教単位諸教会・京都基督教青年会・京都基督教女子青年会・日本基督教婦人矯風会などが参加。 中外 6・6
2・14 ㊤京都の仏教各宗本山と各種文化団体、京都仏教文化協会結成式（委員長は梅原真隆に決定）。 中外 昭16・12・18、2・10		6・一 ㊤大徳寺山内竜光院蔵の竺仙梵墨蹟が国宝に指定される。 官報
2・15 ㊤日本仏教連合会京都市支部を京都府仏教会に改定することを決定し、同会本部を府社寺課に設置。 中外 2・17		7・31 ㊤大本事件第2審判決（出口王仁三郎、治安維持法違反無罪、不敬・新聞紙法・出版法違反有罪、懲役5年）。 京都 8・1、大本事件史
2・21 ㊤華頂健児団（浄土宗）結成。 中外 2・22		8・3 ㊤知恩院の梵鐘を供出。 中外 8・2
2・一 ㊤京都仏教文化協会と市厚生部が、京都市内10カ所の寺院に託児所を開設。 中外 2・7		8・3 ㊤大日本神祇会京都市支部が国民学校教員神祇講座を開催（～7日。中郡・竹野郡・熊野郡・与謝郡・舞鶴市で開く）。 京都 8・5
3・2 ㊤府下全域にわたり家庭祭祀講習会を開催（～17日）、家庭祭祀の普及徹底をはかり敬神崇祖の念を助長させる。 日出 2・21		8・13 ㊤東本願寺が設立した北京女子中学の学生が、同校と姉妹校の光華高等女学校に留学。 中外 8・14
3・31 ㊤金光教の上賀茂・十条・東山の3教会が解散。 金光教年表		8・一 ㊤大森亮順・梅原真隆・山辺習学・暁鳥敏、大政翼賛会調査委員となる。 中央仏教
3・一 ㊤青蓮院の旧仮御所を史跡に指定。 官報		9・14 ㊤梵鐘・神具・仏具は慶長以前のものを除き、すべて供出と決定。 京都 9・15
3・一 ㊤望月信亨が京都に望月仏教文化研究所を開設。 中外		10・1 ㊤久世郡南部の6カ寺（宇治の興聖寺・地蔵院・善法寺・三室戸寺・万福寺）の梵鐘を特別に保存することを知事認可。 中外 10・3
4・1 ㊤井口泰温、浄土宗西山派管長に就任。 文部省告示326号		10・上 ㊤神楽岡の宗忠神社、府社に列格。10・10 鎮座80年祭・列格奉告祭を執行。京都 10・9
4・13 ㊤黒住教京都教団が河本一止を招き、必勝祈願祭・時局大講演会を開催。13日大宮教会、14日西陣教会、15日神楽島中教会。 中外 4・9		10・15 ㊤大政翼賛会京都市支部・大日本神祇会京都支部共催の皇道講座発会式。 稲荷年表
4・一 ㊤大政翼賛会京都市支部が神道13派を合同させ京都神道文化協会を設立させる。6・上、結成大会開催。 京都 4・9		10・一 ㊤知恩院に曇鸞大師1400年遠忌法要を修する。 中央仏教
4・一 ㊤吉田神社が吉田神道を集大成した『唯一神道名法要集』を完成。 京都 4・17、中外 4・12		11・1 ㊤在洛神官たちが皇道文化振興会を組織し平安神宮で発会式。 京都 10・13
5・8 ㊤㊤戦時下国家目的即応の宗教的結合の強化をはかるため、神仏基の代表1,200人が華頂会館で「大詔奉載宗教報国近畿大会」を開催。 京都 5・9		11・2 ㊤京都と東京に分置する仏眼協会を合併し、大日本仏眼協会を設立、東本願寺の大谷智子裏方を総裁に、正力松太郎を会長として発足。 中外 10・29
5・9 ㊤中京区役所、区内の神官ら160余人を招き金属類特別回収運動に協力を要請、5・17から回収運動開始。 京都 5・10		11・8 ㊤法華宗大本山本能寺の梵鐘を供出。 中外 11・11
5・15 ㊤皇教会が楽友会館で講演会を開催、高瀬武次郎が「日本書紀の跋を読む」と題して講演。 中外 5・12		11・28 ㊤同志社図書館前に新島遺品庫竣工し開館式。 同志社90年小史
		12・一 ㊤『八坂神社叢書』第1巻刊行、天皇・皇后・皇太后に献上。 京都 12・23

参	考	日	本
		3・一	政府、ローマ法王庁に公使派遣。
		4・1	落合吉之助（日本聖公会）没。
		4・2	神仏基回りの宗教団体、興亜宗教同盟結成。
		4・一	稲垣陽一郎、聖公会神学院院长に就任。
		5・一	岩井智海没。
		6・9	和田幽玄没。
		6・26	旧ホーリネス教会系のきよめ教会と聖教会の教職者検挙される。
		9・16	日本滞留の宣教師たちを抑留所に強制収容。
		10・10	日本基督教団、戦時布教指針ならびに綱領と実践要目を発表。
		10・28	天理教、戦没将士慰霊祭執行。
		11・27	南原繁、『国家と宗教』刊行。
		11・一	各教宗派管長など、文部省で時局対処の宗教活動を議し、のち参内。
		11・一	宗教局を廃し、文部省教化局に宗教課を置く。
		12・1	鈴木大拙、『浄土系思想論』刊行。
		この年	
		▷	細谷繁松、神之導教会（神習会所属）設立（昭25神之導教として独立）。
		▷	外人宣教師ほとんど帰国。
		▷	生長の家、満州光明思想普及会をつくる。

京 都 府
<p>1・15 ㊤府仏教会が寺院を隣組・町内会・工場団体などに開放して錬成道場を開設すること、産業戦士に対する情操陶冶による日本精神の昂揚のために寺院・集会所を利用して慰安会を開催することを決める。 中外 1・17</p> <p>1・18 ㊤東本願寺法主大谷光暢、大東亜戦争における必勝信念を昂揚するため京都教区を皮切りに全国の巡化にたつ。 中外 1・13</p> <p>1・26 ㊤京都市の主権により西日本都市同和運動協議会を知恩院で開催、「都市同和事業促進」を協議。 中外 1・28</p> <p>2・4 ㊤京都忠霊塔の建設地に東山高台寺境内が決定(8日地鎮祭)。 中外 2・6、京都 2・5</p> <p>2・7 ㊤洛陽教会で日本基督教団樹立総員礼拝・記念親睦会開催、「教会人は信仰を以て報国せよ」との聖旨を伝達。 中外 2・7</p> <p>2・10 ㊤府仏教会主催の第1回推進員錬成会を開催。 中外 2・11</p> <p>2・14 ㊤日本仏教学会主催の京都における仏教学者の時局協議会を西本願寺で開催(全日本仏教徒が結束して翼賛会をはじめ関係方面と力強く提携し、時局下における国民運動の推進力となる方針を決める)。 中外 2・16</p> <p>2・19 ㊤伏見稲荷神社で戦争遂行の資源として奉納銅馬4体を回収。 稲荷年表</p> <p>2・23 ㊤史蹟名勝天然記念物調査会、智積院庭園を史蹟名勝地に決定。 中外 2・25</p> <p>2・一 ㊤大谷光演(前真宗大谷派管長)没。 中外</p> <p>2・一 ㊤金地院(南禅寺塔中)の庭園を名勝に指定。 官報</p> <p>3・19 ㊤東本願寺教学局が戦時中の幼児育成のため保育講習婦人修練会を東本願寺白書院で開催。 中外 3・25</p> <p>3・27 ㊤東本願寺でフィリピンのミンダナオ島上陸での戦死者合同告別法要を執行。 中外 3・24</p> <p>3・27 ㊤八幡町出征遺族慰安会、石清水八幡宮で開催(従軍記者の従軍談・時局講演)。 中外 3・20</p> <p>3・27 ㊤大関春雄(松尾神社宮司)が加茂御祖神社宮司に就任、松尾神社宮司には愛知県付地方祭務官の手塚道男が就任。 中外 3・28</p> <p>6・23 ㊤伏見稲荷神社境内の古鉄約3トンが大坂造兵廠に送られる。10・26には572貫供出。 稲荷年表</p>
<p>6・23 ㊤㊤2府5県宗務事務地方協議会が社寺境内を主要食料の確保のために使用してもよいと決定。 京都 6・25</p> <p>6・26 ㊤賀茂御祖神社(下鴨神社)で氏子区内各国民学校教員・翼壮団員・氏子町内会員らに対し1泊2日の敬神思想普及かん養講習会・錬成会を開催(〜27日)、第1回目は国民学校教員。 中外 6・24</p> <p>7・9 ㊤今宮神社鎮座950年(昭20)の奉賛会(会長に竹上藤次郎)が結成奉告式。同社は錬成道場の建設を計画。 京都 7・10</p> <p>7・10 ㊤阿部恵水が東本願寺臨時内事局長を辞職。 中外 7・13</p> <p>7・27 ㊤真宗教育財団理事会、大谷大学長事務取扱いに関根仁応の後任として東本願寺教学局長磯倉雄を任命、8・4同大学学監に飯田法遠・訓覇信雄が就任。 中外 7・29、8・5</p> <p>9・6 ㊤京都市内の金光教徒が動員報国隊を組織、洛南の軍作業所などで奉仕。 京都 9・4</p> <p>9・一 ㊤西本願寺仏前の金属5具足を供出したため、陶芸の清水六兵衛にその製作を依頼。 京都 9・2</p> <p>10・2 ㊤京都私立中学校関係者が、第1回同和教育研究会を開催、参加者は府下私立校35校の約70人、府の同和教育会主事が講演。 中外 10・1</p> <p>10・19 ㊤建勲神社が船岡祭における神幸祭を中止し時局講演会を開催。 中外 10・16</p> <p>10・一 ㊤大聖寺尼門跡の本堂が落成。 中外</p> <p>11・13 ㊤山辺習学(大谷大学前学監教授・仏教文化協会会長・真宗大谷派講師)が大谷大学長に就任。 中外 11・16</p> <p>11・14 ㊤出陣学徒のため同志社教会で壮行会を挙行。 同志社教会90年小史</p> <p>11・19 ㊤新島襄生誕100年記念行事として京都新聞会館で「一億挺身精神運動講演会」を開催。 同上</p> <p>11・一 ㊤関精拙、臨濟宗管長に就任。 官報</p>

参 考	日 本
	<p>2・3 日本聖公会最終教務院会議開催、同会の法的組織解消。</p> <p>2・14 大日本仏教会、京都知恩院で聖旨奉戴護国法要を行なう。</p> <p>2・15 山田孝雄、『神道思想史』刊行。</p> <p>2・一 大日本仏教会、東京築地本願寺に日泰親善仏教大会を開催。</p> <p>3・31 日本基督教団神学校財団、旧教派関係の諸神学校を統合し、日本東部神学校・日本西部神学校・日本女子神学校を開設。</p> <p>4・15 日本基督教団、聖旨奉戴基督教大会を全国17カ所で開催。</p> <p>6・20 創価教育学会弾圧、牧口常三郎・戸田聖城ら幹部検挙される。</p> <p>6・25 波多野精一、『時と永遠』刊行。</p> <p>6・一 興亜宗教同盟、東京に興亜宗教協力会議開催。</p> <p>7・30 鈴木大拙、『禅思想史研究』1刊行(昭26・5・15、2冊)。</p> <p>7・一 大日本仏教青年会連盟、東京に大東亜仏教青年大会開催。</p> <p>10・一 東大寺で東大寺建立発願1200年記念法要を修行。</p> <p>11・1 国民精神文化研究所と国民錬成所を統合、教学錬成所を設立。</p> <p>11・一 前田聰瑞ら、『浄土宗辞典』を刊行。</p> <p>12・一 法隆寺解体修理に着手。</p>

京	都	府
2・28 ㊤天理教山国分教会が河原町大教会の所属から離れ本部直属となり大教会に昇格。 天理教要覧	11・29 ㊤大日本戦時宗教報国会主催による宗教報国会を京都新聞会館で開催。 中外 12・1	
3・4 ㊤『荷田全集』出版記念講演会、京都新聞会館で開催、竹岡勝也「国学に於ける復古の意義」、河野省三「皇国の教学」などの講演。 稲荷年表	12・2 ㊤大谷大学内に大谷教学研究所を設立。日本教学部（部長金子大栄）・真宗教学部（部長曾我量深）・興亜教学部（部長鈴木大拙）・人文科学部（部長鈴木弘）を設置。 中外 12・4	
4・20 ㊤東本願寺、男子教師に代わり寺門を護るため臨時女子教師検定を施行に先立ち講習会を開催(高倉会館、～5・6)。 中外 4・14	12・12 ㊤伏見稲荷神社で一億憤米英撃砕祈願祭。 稲荷年表	
4・26 ㊤伏見稲荷神社で傷痍軍人に対し皇道精神昂揚修養会を開催。 同上	12・18 ㊤松本文三郎（前東方文化研究所長）没。	
4・一 ㊤本田義英、印度文化研究所を開設。 中外	12・22 ㊤日下俊隆(浄土宗西山光明寺前法主)没、77歳。 中外 昭20・2・2	
5・一 ㊤高木徳準、浄土宗西山派管長に就任。 官報		
6・5 ㊤八坂神社の氏子幹部38人が宇治山田の惟神道場で神事を中心とする練成会を開催(～7日)。 中外 6・7		
6・25 ㊤北野神社で菅公生誕1100年記念祭(～28日)。北野奉賛会では頌徳録の編さんを計画。 中外 6・13、24		
6・29 ㊤大日本仏教会の総けっ起運動の具体化のため府社寺課・府仏教会、各部教学課長を招き青少年教化の方策を懇談。 中外 7・1		
6・一 ㊤伏見稲荷神社が向日町神田を拡張。 稲荷年表		
7・17 ㊤石清水八幡宮で滅敵祈願祭。 中外 7・26		
7・20 ㊤サイパン玉砕の報に接し、この日から7日間聖戦完遂を期し伏見稲荷神社の全職員が宮城遙拝・本殿祈禱を執行。 稲荷年表		
7・23 ㊤松尾神社で敵国必滅祈願祭。 中外 7・22		
7・一 ㊤府仏教会、仏教の挺身運動として紙芝居で町内会・隣組・婦人会へ戦時国民生活の緊張を呼びかける具体策を決める。 中外 7・26		
8・1 ㊤東西本願寺、疎開学童受入れを全国の末寺教会に指令。 中外 8・1		
9・3 ㊤洛北一乗寺下り松の大楠公遺跡に記念碑の建立を地元が計画、一般への協力を呼びかける。 京都 10・22		
9・5 ㊤大徳寺方丈障壁画(狩野探幽筆)84面が国宝に指定される。 指定文化財総合目録		
9・12 ㊤山辺習学没。		
11・11 ㊤吉川神道始祖の惟足大人250年祭が皇典講究所で執行。 中外 11・11		
11・12 ㊤黒住教神楽岡中教会で婦人会秋季大会を開催、皇軍武運長久・勤労学徒の身体健全祈願祭を執行。 同上		

参	考	日	本
		1・19	泰慧昭没。
		1・25	大日本仏教会、僧侶勤労働員計画を作成。
		1・27	宗教教化方策委員会官制公布。
		2・一	高階隴仙、曹洞宗管長に任ず。
		3・25	藤井清水没。
		3・31	聖公会神学院、文部省により強制閉鎖。
		3・一	『みちのもと』、『天理教教報』と改題、続刊。
		4・18	大日本仏教会、緊急理事会を開き、仏教徒総けっ起報国運動に関する実施要項を発表。
		4・21	厚生・文部両省、仏教各宗派僧侶の戦時勤労働員の実施要綱公布。
		4・29	高楠順次郎、文化勲章を受ける。
		4・一	天理教教校の服装、ハッピーとなる。
		5・8	宗教教化方策委員会、文部大臣に宗教による教化活動の強化促進方策を答申(8・8文部省同要項発表)。
		5・一	橋本凝胤、法相宗管長に就任。
		7・一	天理教、いざひのきしん隊結成。
		8・28	大達内相、全国神職寇敵撃滅祈願訓令。
		8・一	文部省、寺院教会の疎開についての積極的協力を求める通牒を発する(9・6大日本仏教会も同要項を決定)。
		9・30	大日本仏教会・神道連合会・キリスト教連合会を発展的に解消し、大日本戦時宗教報国会を結成。
		11・20	日本基督教団、『日本基督教団より大東亜共栄圏に在る基督教徒に送る書翰』を発行。
		11・30	太田覚眠(真宗本願寺派僧侶)没(79歳)。
		11・30	辻善之助、『日本仏教史』上世篇(～昭30・1・25、中世篇5冊・近世篇4冊)刊行。
		11・30	芝聖アンデレ教会戦災により焼失。
		12・7	井上哲次郎没(90歳)。
		12・15	鈴木大拙『日本的靈性』刊行。
		この年	▷ 牧口常三郎(創価教育学会学長)没(74歳)。

京	都	府
1・5 ㊤鞍馬寺奥之院魔王堂・金堂を焼失。 中外 1・7		4・1 ㊤府社寺課、東山一帯の社寺有林を横 穴の杭木や防空壕の資林のため一部伐採するこ とを認可。 中外 4・18
1・10 ㊤浄土宗、京都区の疎開学童慰問隊を 結成、2・10西山派も活動を開始。また3・22西本 願寺では近畿各地の受入寺院関係者を招集し協議 会を開催。 中外 1・12、28、3・27		4・1 ㊤大谷婦人法話会、大谷保母養成所を 開設、疎開学童の寮母養成を重視。 中外 3・18
1・13 ㊤大島徹水没、75歳（家政高等女学校 長・浄土宗大本山法主）。 中外 1・26		4・1 ㊤西本願寺、戦時下宗門の統監部を設 置。 中外 4・2
1・27 ㊤郁芳圃圓没、79歳（浄土宗管長）。 中外 1・15		5・15 ㊤葬祭の行列中止、勅使参向のみ実施 （稲荷・松尾・上下御霊・今宮などの各社の祭礼 では御輿の渡御を中止）。 京都 5・1
1・一 ㊤同志社教会では礼拝者激減のため礼 拝をチャペルから神学館講堂へ移す。祈禱会は空 襲警報のため休止。 同志社教会90年小史		5・22 ㊤深谷かの（天理教河原町大教会会長） 没（51歳）。 河原町大教会史
1・一 ㊤府下各神社では連合軍の空爆から御 神体を保護するため神殿の下に防空壕を掘る。無 住の小社は代務者を置く。国宝はすべて疎開。 京都 1・22		5・28 ㊤西本願寺の唐門・大玄関・鴻ノ間・ 白書院・黒書院・南北両能舞台・本堂・大師堂・ 飛雲閣などの全国宝建造物および古溪の池・滴水 園の両名勝保存指定地その他林泉を爆撃から保護 するため市文化課・国民映画協会・京都写真文化 協会が協力して写真撮影。 中外 5・26
2・1 ㊤府社寺課、社寺の防空防止対策懇談 会を開き、緊急対策実施要項を決める。 中外 3・4		5・一 ㊤東本願寺教学局、戦局危急のため本 年上半期の教化活動のねらいを戦争一本に集約。 中外 5・27
2・5 ㊤㊤府警防課・社寺課、北野・松尾・ 梅宮の各神社、妙心寺・天竜寺などの首脳と防空 防火について対策を協議。 京都 2・6		6・29 ㊤伏見稲荷神社で第1回軍刀献納奉告 祭、祭典後陸軍省に献納。 稲荷年表
2・14 ㊤東本願寺の毛綱を軍部に献納(明12・ 5同寺本堂再建のとき全国の婦人信徒が頭髪を切 り毛髪を作って献納したもの)。 中外 2・14		7・一 ㊤府宗教報国会および社寺課が、戦災 対処宗教教化活動の要綱を決定。 中外 7・31
2・21 ㊤浄土宗京都教区の尼僧が、勤労報 国隊を結成。 中外 2・23		8・15 ㊤終戦の詔勅発布され府下神社で皇 國護持の熱禱を開始。 京都 8・23
2・22 ㊤真言宗大覚寺門跡に神護寺住職谷内 清巖を決定。 中外 2・24		8・24 ㊤京都府官国幣社宮司会、平安神宮で 開催、防空施設の撤廃整理を決定。 中外 8・28
2・一 ㊤智積院庭園を名勝に指定。 官報		8・29 ㊤石清水八幡宮で京都府国民義勇隊解 散奉告祭。 京都 8・30
3・4 ㊤望月信亨、浄土宗管長に選任。 中外 3・4		8・31 ㊤西本願寺法主の最高諮問機関として 特設した戦時宗門統監部を諸非常措置法とともに 廃止。 中外 9・14
3・21 ㊤天理教河原町大教会の重要物資を大 原分教会へ疎開。 河原町大教会史		9・6 ㊤各宗が共営する勤労文化研究所、戦 力増強のための勤労管理の研究から食糧増産への 勤労、とくに食糧問題の研究へ移して再発足。 中外 9・4
4・8 ㊤府仏教会、華頂会館別館で花祭りを 開催、印度国民軍戦死者と空襲犠牲者を追弔。 中外 4・10		9・8 ㊤大本事件、出口王仁三郎らの上告棄 却。10・17、大赦令公布、有罪判決を解消。 大本事件史
4・16 ㊤竜谷大学研究部、「大東亜建設と仏 教的理念」につき研究を開始。 中外 4・18		9・9 ㊤林彦明没、78歳（百万遍大本山知恩 寺法主・勸学・支那開教総監）。 中外 9・18
4・16 ㊤洛北鞍馬寺本堂焼失。 同上		9・9 ㊤竹田颯川没、68歳（臨済宗大本山建 仁寺貫首・同僧堂師家）。 中外 9・11
4・19 ㊤伏見稲荷神社の神幸祭、戦局緊迫に つき居祭となる（昭22・4・21従前どおりとなる）。 稲荷年表		9・20 ㊤知恩院大鐘、彼岸のため戦争後はじ めて打ち鳴らす、～26日。 中外 9・18
4・一 ㊤大日本神祇会京都府支部が神祇学校 創立委員会を開く、京都国学院あとに近畿神祇学 校（国学をおさめる中学校）の設立を決定(昭21・ 4開校予定)。 京都 4・26		9・20 ㊤西本願寺一如会・東本願寺真身会・ 京都市の3者共同で、終戦後の思想問題として同 和運動を徹底するため懇談会を開催。 中外 9・15、21

京	都	府	日	本
9・27 ㊤萩原方円が天理教河原町大教会の第 6代会長に就任。 天理教要覧			1・25	文部省、大日本教化報国会を結成（教 化・文化30団体の連絡指導機関）。
10・7 ㊤知恩院の平安養育院(財)医療部を一 般人に開放し、無投薬治療を実施。 中外 10・6			2・24	河口慧海没（80歳）。
10・15 ㊤東本願寺が戦時対処事務所と宗門総 動員本部に関する宗規を廃棄し、非常措置に関する ものを宗務所に還元、また戦時予算を平時に戻し て更生予算をたてることなどを完了。 中外 9・7			3・4	金森通倫（熊本バンド）没（88歳）。
10・18 ㊤亀岡町、大本神苑の土地を大本に返 還。11・15 綾部町、大本神苑の土地を返還。 京都 10・17、大本事件史			3・一	東京芝おおよび上野の徳川氏の霊廟、浅 草寺本堂・五重塔など、戦災により焼失。
10・一 ㊤同志社が日曜礼拝を復活。 京都 10・15			4・一	空襲いよいよ激しく、神社・寺院・教 会の焼失もおびただし。
10・一 ㊤竜大教授高橋俊乗、竜大初の博士号 を授与。主論文「近世学校教育の起源」・副論文 「近世教育思想の研究」。 中外 10・17			5・5	常盤大定（真宗大谷派学僧）没(76歳)。
11・4 ㊤西本願寺本尊・親鸞木像など各種宝 物を疎開先奈良興徳善寺から帰還。 中外 11・7			5・25	東京芝増上寺本堂、戦災により焼失。
11・11 ㊤茂義太郎（大阪九条教会牧師）が第 12代同志社教会牧師に就任。同志社教会90年小史			6・28	高楠順次郎没。
11・13 ㊤大谷大学、新日本建設の新社態に即 応して学園の機構改革に本格的に着手すべく学制 審議会を設立。 中外 11・17			8・12	北村サヨ、山口県田布施で天照皇大神 宮教<踊る宗教>を開教。
11・19 ㊤京都基督教報国会、京阪神在留の米 第6軍所属牧師30人と同志社で懇談。 京都 11・17			8・15	太平洋戦争終結の詔勅発布。
11・一 ㊤山崎益州、臨済宗管長に就任。 官報			9・19	各宗派管長・教団統理者会議開催、日 本再建宗教教化実践要綱を決定。
11・一 ㊤阿部恵水没。 中外 11・17			9・20	文部省、終戦後における宗教教化によ る国民道義の昂揚をはかるため仏教各宗派管長と 協議する。
12・1 ㊤竜谷大学公開講座開催。 中外 11・20			9・27	連合軍司令部、文部省に宗教行政に関 する一切の資料を10・15までに提出するよう命ず る。
12・3 ㊤西本願寺京都教区教務所、京都市後 援で餓死者救済のため施食を実施。 中外 12・1			9・一	天台・真言・臨済・法華の各宗派共 営の勤労文化研究会を再興。
12・12 ㊤東本願寺厚生部、七条署管内浮浪者 約200人に草粥供養を実施、京都仏眼協会も協力。 中外 12・14			10・3	杉村広太郎（楚人冠）没（73歳、新聞 記者・宗教論者）。
12・20 ㊤官国幣社会、平安神宮で開催。国庫 補助廃止後の対策について協議（稲荷・八坂・北 野の各社は氏子で維持可能だが他社では見通しが 立たない）。 京都 12・18			10・4	政治的・社会的・宗教的自由に対する 制限除去の覚え書、発せらる。
この年 ▷ ㊤第2～4次建物疎開のため、山科・中立 売・西陣・松原・堀川・五条・七条・川端・伏見 および堅牢建築物周辺の寺数10カ寺、神社・教会 等数カ社が移転または一部立退きを命じられる。 府庁文書 昭20			10・15	文部省、私立学校における課程外の宗 教教育実施を許可。
			10・21	大日本戦時宗教報国会、日本宗教会と 改称。
			10・一	教学局を廃し、社会教育局に宗教課を 置く。
			12・1	日本天主教教会は宗教法による教団 組織を解消、天主教教区連盟を設置、戦後の布 教体制をととのえる。
			12・12	日本宗教協会、宗教日本の建設を目標 に設立。
			12・13	日本聖公会、立教大学で臨時総会（第 21回）開催、教会の再建を協議。
			12・15	連合軍司令部、国家神道・神社神道に 対する政府の保証・支援・保全・監督並びに弘布 の廃止に関する覚書<神道指令>を発し、神道と 国家との分離を指令。
			12・28	宗教団体法廃止。
			12・28	宗教法人令（神社寺院教会財産登記取 扱手続などを公布（信教自由の保障））。